



第五次伊東市総合計画

第十一次基本計画
中間評価書

1 第五次伊東市総合計画策定の目的

本市を取り巻く環境は、近年の全国的な傾向と同様に、人口減少及び少子・高齢化の進行並びに大規模化する自然災害の発生が危惧されるとともに、情報化社会の進展が進むなど大きく変化しており、これらの変化に的確かつ迅速に対応していく持続可能で柔軟な市政運営が求められております。

また、伊東市が有する美しい自然や郷土の歴史文化等を守りつつ、これらかけがえのない本市ならではの財産を生かし、市民と行政が知恵を出し合いながら新たなまちづくりを進めることにより、成長していくことが求められております。

このような中、時代の変化を予測するとともに、高度化かつ多様化する市民の価値観やニーズに適応した魅力的で住みよい伊東市の創造を目指し、市民、事業者及び行政が連携しつつ、計画的かつ戦略的にまちづくりを展開していくことを目的としております。

2 計画の役割

(1) まちづくりの指針

全てのまちづくり活動の根拠となるものであり、市民・事業者など様々な主体との共通の活動指針としての役割を果たします。

また、国・県などが本市に係る計画策定や事業を実施する際に、最大限尊重されるべき指針としての役割を果たします。

(2) 最上位計画としての指針

市の最上位計画として、福祉、環境、観光、教育等の分野における個別計画を策定する際の指針としての役割を果たします。

(3) 行政経営の指針

市財政の長期的展望を踏まえながら、行政の運営を管理ではなく経営と考え、成果と評価に重点を置いた行政経営を進めていくための指針としての役割を果たします。

3 計画の構成及び期間

(1) 基本構想

伊東市におけるまちづくりの基本理念及び将来像を定めたものです。
全体の計画期間は、10 年間とします。

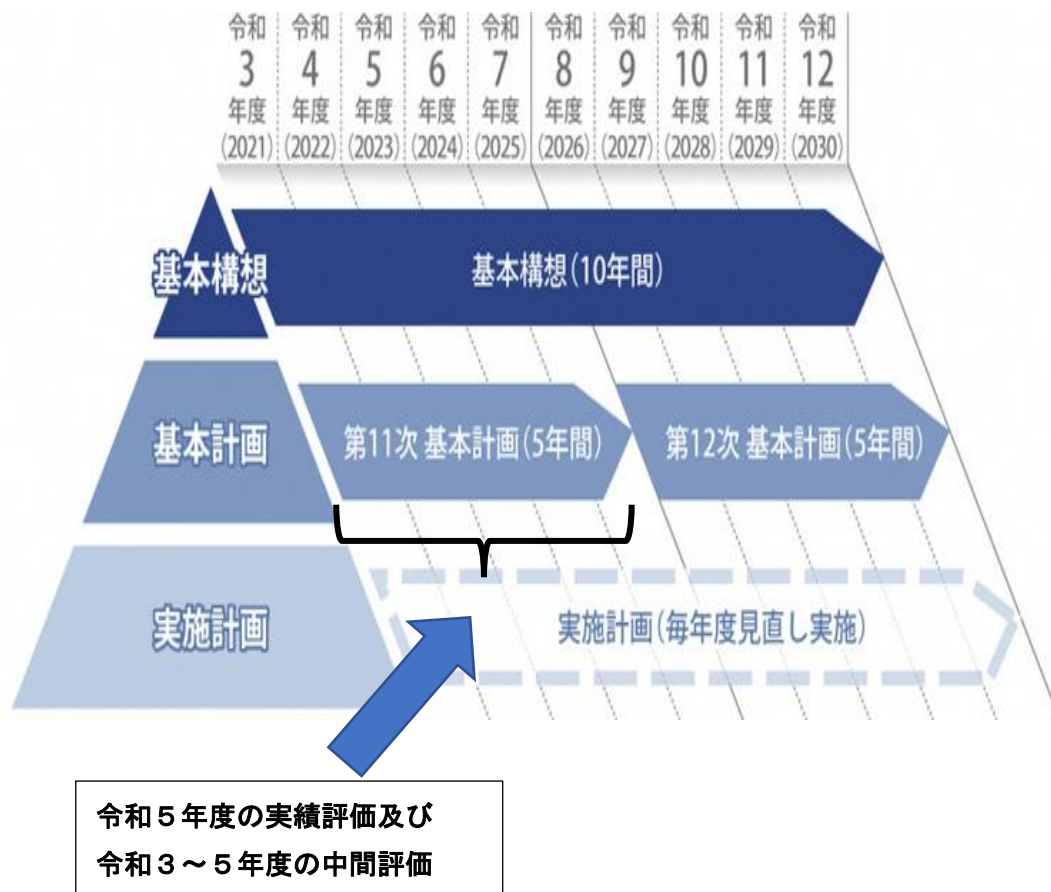
(2) 基本計画

基本構想を実現するための行政活動の基本となる政策・施策を体系的に示すとともに、施策の方向性を定めたものです。

計画期間は、前期・後期の各 5 年間とし、必要に応じて内容の見直しを行います。

(3) 実施計画

実施計画は、基本計画を定めた施策を実現するための具体的な手段として、事業計画を策定するものです。財政状況の変化等を勘案して毎年度見直しを行います。



4 第十一次基本計画の中間評価について

第十一次基本計画は、第五次伊東市総合計画基本構想における基本計画として策定しております。

計画期間は、令和3年度から令和7年度までとなっており、まちづくりの基本方向を示す政策目標と、それを具体化するための施策を体系的に示すとともに、施策が目指す姿や課題、取組方針などをまとめたものです。

この度、取組の3年目となる令和5年度が終了したことから、第十一次基本計画に記載された政策目標ごとの重要業績評価指標（K P I）の評価及び検証を行います。

これらの指標の評価・検証（Check）をもとに、令和6年度以降の事業執行及び第十二次基本計画（令和8年度から令和12年度）の策定時における重要業績評価指標に反映（Action）します。

(1) 評価の基準

A : R5 年度の実績値が R7 年度の目標値を上回っており、かつ、R3 年度及び R4 年度も各年度の目標値を達成している。

B+ : R5 年度の実績値が R7 年度の目標値を上回っているが、R3 年度及び R4 年度で各年度の目標値を達成していない。または、R5 年度の目標値を上回っているが、R7 年度の目標値には至らず。
(R3～R4 年度の評価は考慮しない。)

B : R5 年度の目標値どおり (R3～R4 年度の評価は考慮しない。)

B- : R5 年度の目標値の▲5%以内 (R3～R4 年度の評価は考慮しない。)

C : R5 年度の目標値の▲5%を超えて下回り、過去2か年度において1回は各年度の目標値を達成している。

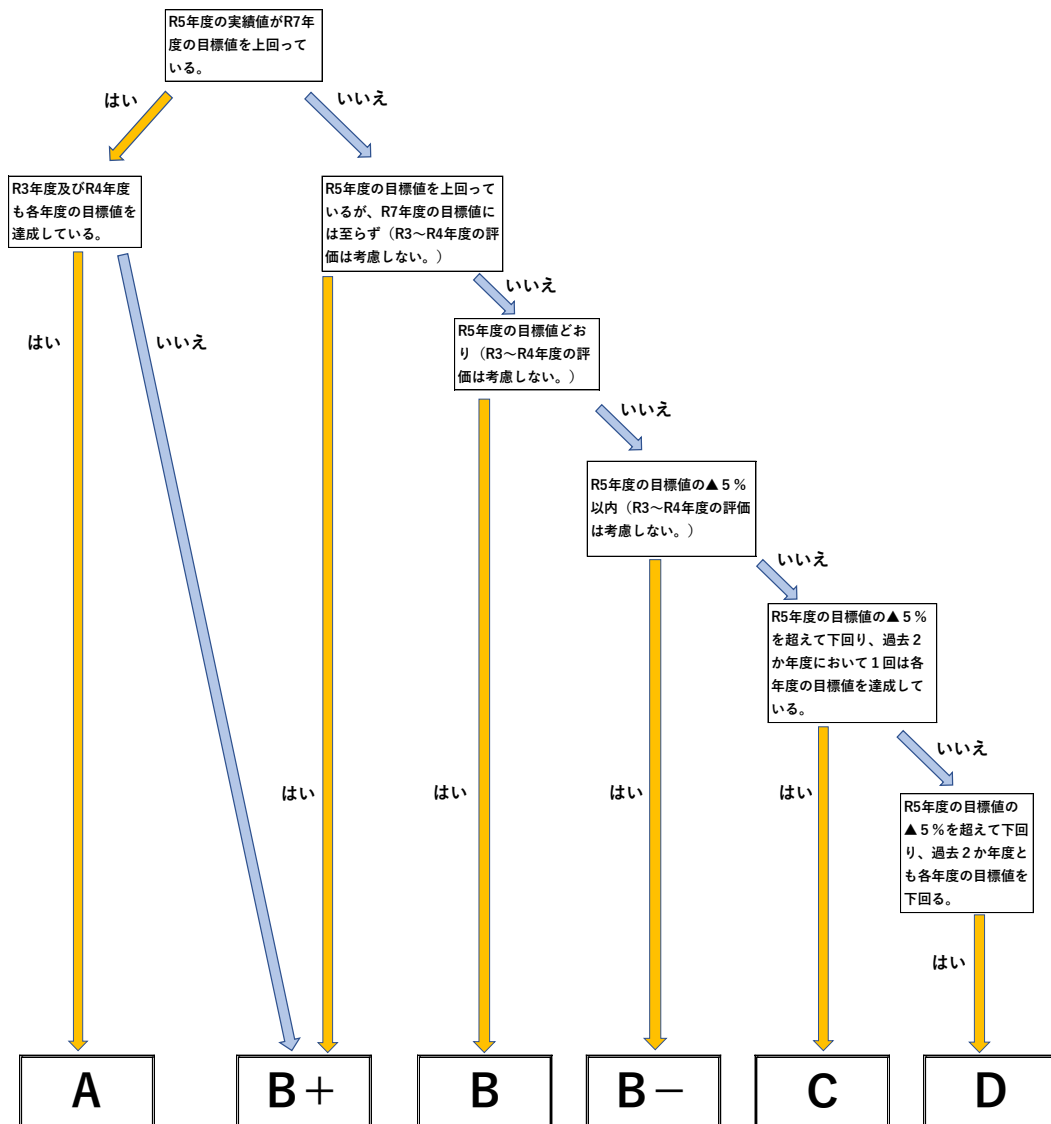
D : R5 年度の目標値の▲5%を超えて下回り、過去2か年度とも各年度の目標値を下回る。

— : 評価困難

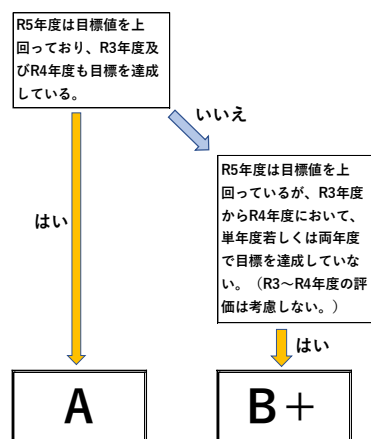
第五次伊東市総合計画

第十一次基本計画・実施計画（目的指向体系表）中間評価の方法

【原則】



【維持目標（R3～R7年度の目標値が同数値）の特例】



※R5年度の目標値どおりの場合、または目標値を下回っている場合は、上記【原則】の考え方に従う。

(2) 評価結果

政策目標 1 「安全で安心して暮らせるまち」〈危機管理〉

成果指標 12項目

項 目	該 当 数
A	5
B+	1
B	2
B-	1
C	1
D	2
—	0

政策目標 2 「誰もが健やかに暮らし活躍できるまち」〈医療・健康・福祉〉

成果指標 20項目

項 目	該 当 数
A	5
B+	4
B	0
B-	4
C	1
D	4
—	2

政策目標 3 「良好な環境が広がり快適に暮らせるまち」〈自然・環境・都市〉

成果指標 13項目

項 目	該 当 数
A	3
B+	0
B	0
B-	2
C	2
D	6
—	0

政策目標 4 「心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち」

〈教育・歴史・文化〉

成果指標 13 項目

項 目	該 当 数
A	2
B+	2
B	1
B－	3
C	0
D	5
－	0

政策目標 5 「活力にあふれ交流でにぎわうまち」〈観光・産業・交流〉

成果指標 17 項目

項 目	該 当 数
A	7
B+	2
B	0
B－	1
C	2
D	5
－	0

構想の推進「総合計画を推進するための土台づくり」〈協働・行政改革〉

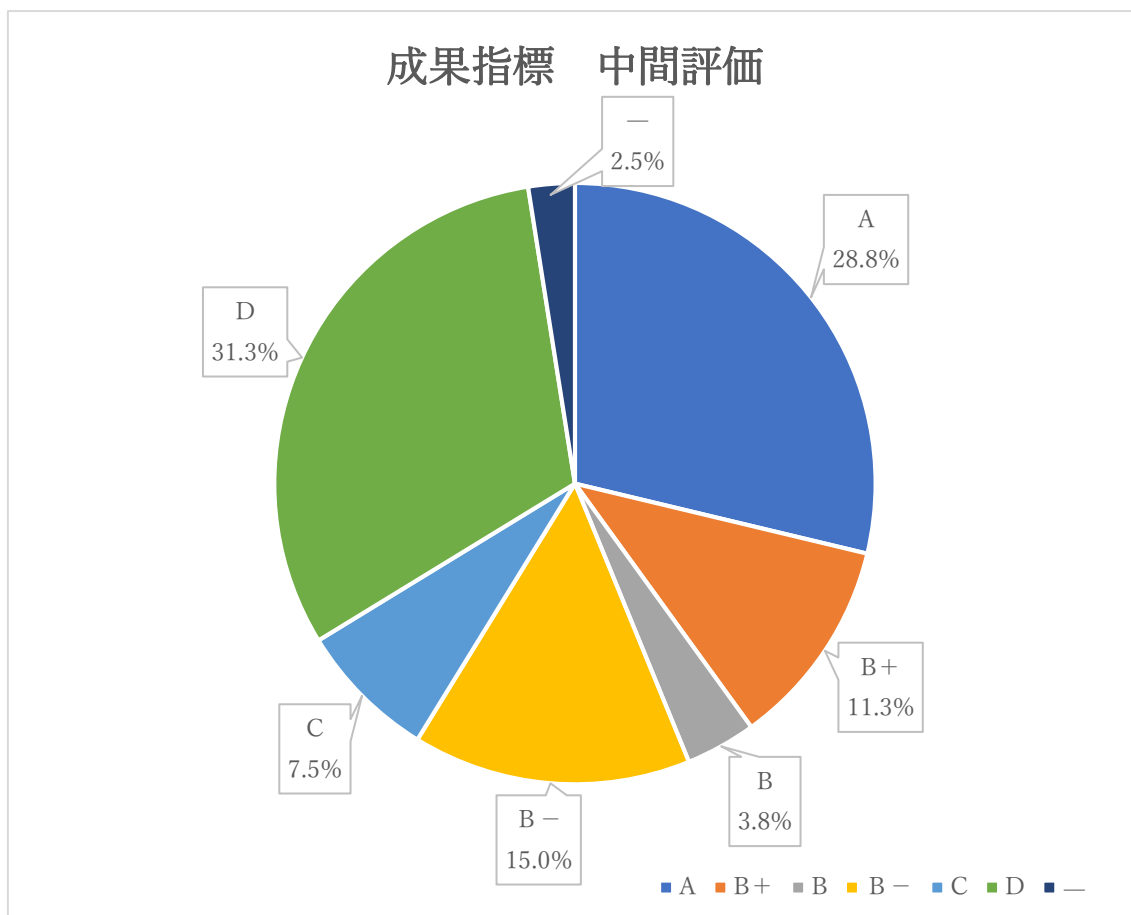
成果指標 5 項目

項 目	該 当 数
A	1
B+	0
B	0
B－	1
C	0
D	3
－	0

(3) 評価結果まとめ

・成果指標 80項目

項 目	該 当 数	割 合 (%)
A	23	28.75
B+	9	11.25
B	3	3.75
B-	12	15.0
C	6	7.5
D	25	31.25
—	2	2.5



目次（施策分野別）

施策分野		担当課	ページ番号
政策目標１「安全で安心して暮らせるまち」			
1-1	危機管理体制の充実	危機対策課	11
1-2	総合治水対策の強化	建設課	12
1-3	災害に強い建築物や公共施設の整備	危機対策課	13
		建設課	
		建築住宅課	
1-4	生活安全の推進	危機対策課	14
1-5	消防体制の強化 (消防団体制の強化・消防水利の充実)	危機対策課	15
政策目標２「誰もが健やかに暮らし活躍できるまち」			
2-1	地域医療の充実	健康推進課	17
2-2	健康づくり支援	健康推進課	18
2-3	出産・子育て支援の充実	子育て支援課	19
2-4	保育及び幼児教育の充実	幼児教育課	20
2-5	高齢者福祉の充実	高齢者福祉課	21
		健康推進課	
2-6	障がい者福祉の充実	社会福祉課	22
2-7	地域福祉の推進	社会福祉課	23
2-8	多様性のある社会の実現	市民課	24
2-9	保険・年金制度の運営	保険年金課	25
政策目標３「良好な環境が広がり快適に暮らせるまち」			
3-1	自然との共生社会の推進	環境課	27
		産業課	
3-2	循環型社会の推進	環境課	28
3-3	生活排水対策の充実	下水道課	29
3-4	安全でおいしい水の安定供給	水道課	30
3-5	魅力的な都市空間の創造	都市計画課	31
3-6	公共交通体系の充実	都市計画課	32
3-7	道路環境の整備	建設課	33

目次（施策分野別）

施策分野	担当課	ページ番号
政策目標4「心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち」		
4-1 教育環境の整備	教育総務課	35
4-2 未来を創る教育の充実（小・中学校）	教育指導課	36
4-3 生涯学習活動の推進	生涯学習課	37
4-4 青少年の健全な育成	生涯学習課	38
4-5 市民スポーツ活動の推進	生涯学習課	39
4-6 歴史・芸術文化の振興	生涯学習課	40
4-7 郷土愛の醸成	企画課	41
政策目標5「活力にあふれ交流でにぎわうまち」		
5-1 地域資源の魅力向上	観光課	43
5-2 新たな観光形態の構築・推進	観光課	44
5-3 広域連携による誘客の拡充	観光課	45
5-4 商工業の振興	産業課	46
5-5 農林業の振興	産業課	47
5-6 水産業の振興	産業課	48
5-7 移住定住の促進・関係人口の拡大	企画課	49
5-8 国際交流の推進・都市交流の促進	秘書広報課	50
構想の推進「総合計画を推進するための土台づくり」		
6-1 全員参加によるまちづくりの推進	秘書広報課	52
6-2 市民の信頼に応える行政運営	職員課	53
6-3 健全かつ持続可能な財政運営	財政課	54

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 1 安全で安心して暮らせるまち

- 施策 1－1 危機管理体制の充実
- 施策 1－2 総合治水対策の強化
- 施策 1－3 災害に強い建築物や公共施設の整備
- 施策 1－4 生活安全の推進
- 施策 1－5 消防体制の強化

担当課		施策1-1の全指標達成率					
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	1 危機管理体制の充実	指標数	22	22	22	22	22
目指す姿	市民、観光客等が、自然災害等により死傷しない	達成数	14	14	15	0	0
		達成率	63.6%	63.6%	68.2%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	1	1	1	1	1
		達成数	1	1	1	0	0
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
成果指標	発災時の人的被害者数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
		R1	目標値	0	0	0	0
		6人	実績値	0	0	0	
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成		
目標値の考え方	大規模自然災害時における人命の保護を最優先とした、事前防災対策を推進していくため発災時の人的被害者数を0人に設定した。						
R3年度	（実績評価）・熱海市で大規模土流災害発生の原因となった大雨で、本市においても7月1日から4日の間避難所を開設し、避難者8人を受け入れたが、死傷者を出すような大規模な自然災害の発生はなかった。 （次年度修正点）・修正はなし。引き続き人命の保護を最優先とした、事前防災対策の推進に努めていく。						
R4年度	（実績評価）・8月13、14日及び9月24日に大雨のため避難所を開設し、合計5名の避難者を受け入れたが、死傷者を出すような大規模な自然災害の発生はなかった。 （次年度修正点）・修正はなし。引き続き人命の保護を最優先とした事前防災対策の推進に努めていく。						
R5年度	（実績評価）・6月2、3日及び3月29日に大雨のため避難所を開設し、合計9名の避難者を受け入れたが、死傷者を出すような大規模な自然災害の発生はなかった。 （次年度修正点）・修正はなし。引き続き人命の保護を最優先とした事前防災対策の推進に努めていく。						
中間評価	（達成状況）	A					
	（実績評価）	・これまでの間、人的被害を出すような大規模災害の発生はなかったが、総合防災ガイドブックや防災講話等による周知・啓発活動等により、住民の防災意識が高まっていることも考えられる。					
	（今後の対応）	・引き続き人命の保護を最優先とした事前防災対策の推進に努めていく。					

担当課		建設課	施策1～2の全指標達成率								
政策目標		1	安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野		2	総合治水対策の強化	指標数	15	15	15	15	15		
目指す姿		市域で水害や土砂災害が発生しない		達成数	12	13	13	0	0		
				達成率	80.0%	86.7%	86.7%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2			
				達成数	1	1	1	0	0			
				達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
成果指標				基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
1	河川が溢れる件数			R1	目標値	0	0	0	0	0	件	建設課
				0件	実績値	0	0	0				
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
目標値の考え方	雨天時における河川の流下能力・危険箇所の把握、時間雨量50mmに対応できる河川及び水路の計画的な整備、河川等の補修に関する市民要望を迅速かつ的確に対応して被害を無くす。											
成果指標				基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
2	急傾斜地崩壊危険区域指定の総指定箇所数			R1	目標値	35	36	37	38	39	か所	建設課
				34か所	実績値	34	34	34				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	急傾斜地崩壊危険区域指定の促進、事業における地域住民との調整を行い県へ要望する箇所数を1箇所以上とする。											

R3年度	1（実績評価）・随時、危険箇所の修繕、溢水箇所の改修を行い、また、大雨時におけるパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。 （次年度修正点）・大雨時のパトロールを強化し、危険箇所の把握を行い、日常的な維持管理に努める。											
	2（実績評価）・要望箇所における地元調整を行ったが、受益者の同意が得られず、指定に至らなかった。 （次年度修正点）・地元説明会を適宜行い、全ての受益者等の理解を得て、区域の指定促進に努める。											
R4年度	1（実績評価）・適宜、危険箇所の修繕、溢水箇所の改修を行い、気象情報を注視しパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。 （次年度修正点）・定期パトロールを強化するとともに、危険箇所の把握を行い、日常的な維持管理に努める。											
	2（実績評価）・要望箇所（見晴町）において、静岡県急傾斜地崩壊対策事業費補助金（指定促進）の要求を行った。 （次年度修正点）・地元説明会を適宜行い、受益者等の理解を得て、区域指定を促進する。											
R5年度	1（実績評価）・危険箇所の修繕や溢水箇所の改修を適宜行うとともに、気象情報を注視しパトロールを実施したことにより、河川及び水路の溢水による被害を防止した。 （次年度修正点）・定期パトロールを強化し、危険箇所の把握を行い、日常的な維持管理に努める。											
	2（実績評価）・要望箇所（見晴町）において、静岡県急傾斜地崩壊対策事業費補助金（指定促進）の要求を行った。 （次年度修正点）・地元説明会を適宜行い、受益者等の理解を得て、区域指定を促進する。											

中間評価	1（達成状況）	A										
	（実績評価）	・豪雨時におけるパトロールにより、危険箇所の修繕等を行い、河川及び水路の溢水による被害を防止した。										
	（今後の対応）	・今後も河川等のパトロールを実施し、事前に危険箇所の把握を行い、迅速な対応を図る。										
	2（達成状況）	D										
	（実績評価）	・砂防及び急傾斜地崩壊危険区域の指定については、現状、指定条件に合致する案件が少ないため、目標値に至っていない。										
	（今後の対応）	・引き続き、砂防事業及び急傾斜地事業について住民への周知を図り、各事業の促進に努める。										

担当課	危機対策課・建設課・建築住宅課		施策1―3の全指標達成率							
政策目標	1	安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	3	災害に強い建築物や公共施設の整備	指標数	14	14	14	14	14		
目指す姿	建築物の耐震性等の安全性が確保されている		達成数	6	7	9	0	0		
			達成率	42.9%	50.0%	64.3%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）			指標数	3	3	3	3	3		
			達成数	2	2	2	0	0		
			達成率	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%		

成果指標	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
1 市有建築物の耐震化率	R1	目標値	100	100	100	100	%	危機対策課
	95.3%	実績値	95.2	95.2	95.1			
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成			
目標値の考え方	「伊東市が所有する公共建築物の耐震化計画」に基づき、計画的な耐震化を進め、地震災害時における建物の倒壊等による人的被害を防ぐため、市有建築物の耐震化率を100%に設定した。							

成果指標	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
2 港湾施設の整備要望の実施箇所数（累計）	R2	目標値	2	4	6	8	か所	建設課
	2か所	実績値	4	5	6			
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
目標値の考え方	白石防波堤延伸事業を含めた伊東港における、港湾整備を港湾施設管理者（静岡県）に要望した実施箇所数を年間2箇所以上とする。							

成果指標	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
3 民間住宅の耐震化率	R1	目標値	83.5	84	84.5	85	%	建築住宅課
	83%	実績値	83.9	84.3	84.6			
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成			
目標値の考え方	平成25年から平成30年までの耐震化率を算出した結果、各年約0.5%の上昇が確認できたことから、引き続き年0.5%以上の耐震化率の向上を目標とし86%と目標値を設定した。							

R3年度	1（実績評価）	・数値の減少については、市営新山住宅2棟を用途廃止したことにより耐震化率を計算する際に生じた微差であり、現状に変化はない。 （次年度修正点）・引き続き市有建築物の耐震化率100%を目標として計画を推進していく。						
	2（実績評価）	・白石防波堤延伸、浮桟橋改良、小浦防波堤改良、第一防波堤改良（測量・設計）事業を行った。 （次年度修正点）・引き続き、伊東港整備事業の推進について要望を継続していきたい。						
	3（実績評価）	・耐震化率の実績値は、昭和56年以前の木造住宅の補強工事に加えて解体工事が増加したことで目標値を上回った。 （次年度修正点）・耐震補強の必要性や補助金の活用に対する啓発を継続して進めていくことで、民間住宅の耐震化率の向上を図る。						

R4年度	1（実績評価）	・令和4年度については市有建築物の状況に変化はなく前年度と同じ数値となっている。 （次年度修正点）・引き続き市有建築物の耐震化率100%を目標として計画を推進していく。						
	2（実績評価）	・白石防波堤延伸、浮桟橋改修、第一防波堤改良、小浦防波堤改良、湯川東離岸堤改良を行った。 （次年度修正点）・引き続き、伊東港整備事業の推進について要望を継続していきたい。						
	3（実績評価）	・耐震化率の実績値は、昭和56年以前の木造住宅の補強工事に加えて解体工事が増加したことで目標値を上回った。 （次年度修正点）・耐震補強の必要性や補助金の活用に対する啓発を継続して進めていくことで、民間住宅の耐震化率の向上を図る。						

R5年度	1（実績評価）	・数値の減少については、スカイポート亀石の解体完了により、耐震化率を計算する際に生じた微差であり、現状に変化はないものである。 （次年度修正点）・引き続き、市有建築物の耐震化100%を目標として関係各課と連携、情報共有を行っていく。						
	2（実績評価）	・浮桟橋改修、第一防波堤改良、宮町船揚場改修を行った。 （次年度修正点）・引き続き、伊東港整備事業の推進について要望を継続していく。						
	3（実績評価）	・昭和56年以前の木造住宅の補強工事に加えて、除却工事も増加している傾向にあり、目標値を上回ることができた。 （次年度修正点）・耐震補強の必要性や補助金の活用に対する啓発を継続し、戸別訪問を積極的に進めていくことで、民間住宅の耐震化率の向上を図る。						

中間評価	1（達成状況）	B-													
	（実績評価）	・耐震化に係る対応の判断は所管課によるものであるが、耐震化対応のための事業費が大きく、進捗が進んでいない状況である。													
	（今後の対応）	・地震災害時における建物の倒壊等による人的被害を防ぐため、関係各課と連携・情報共有を行う。													
	2（達成状況）	B													
	（実績評価）	・白石防波堤延伸、浮桟橋改修、第一防波堤改良、小浦防波堤改良、湯川東離岸堤改良、宮町船揚場改修を行った。													
	（今後の対応）	・引き続き、伊東港整備事業の推進について要望を継続していきたい。													

中間評価	3（達成状況）	B+													
	（実績評価）	・昭和56年以前の木造住宅について、耐震補強工事の補助金に加え、令和4年度から除却工事についても補助金メニューを増設したことで、目標値を上回ることができた。													
	（今後の対応）	・新型コロナウイルス感染症の影響もなくなったことから、戸別訪問を積極的に計画し、所有者への周知を促し、令和7年度までに目標値に達するよう今まで以上に補助金事業の啓発を図る。													

担当課		施策1-4の全指標達成率					
政策目標	1 安全で安心して暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	4 生活安全の推進	指標数	16	16	16	16	16
目指す姿	市民等が交通事故や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	達成数	8	11	10	0	0
		達成率	50.0%	68.8%	62.5%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2
		達成数	2	2	2	0	0
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

成果指標	市内における刑法犯認知件数（暦年）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
1		R1	310	300	290	280	270	件	危機対策課
	324件		実績値	245	293	257			
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成		以下	

目標値の考え方 市内における刑法犯認知件数は、令和元年実績324件であり、過去10年において、54.4%と大幅に減少している。しかし、各年における減少率には差があるため、直近3年間の平均減少率を計算し、各年3%程度減少を見込む中で、令和7年270件とした。

成果指標	市内における人身交通事故発生件数（暦年）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
2		R1	330	310	290	275	260	件	危機対策課
	367件		実績値	270	267	239			
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成		以下	

目標値の考え方 市内における人身交通事故発生件数は、令和元年実績367件であり、過去10年において、37.3%と減少している。しかし、各年における減少率には差があるため、直近5年間の平均減少率を計算し、各年5.3%程度減少を見込む中で、令和7年260件とした。

R3年度	1（実績評価）	・目標値を十分達成できており、前年比ベースでも13件減少となった。コロナ禍における感染防止のため、啓発活動を自粛することはあったが、市民と接触しない活動（青バト活動等）等、地道な活動が結果につながった。
	（次年度修正点）	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今後も啓発活動は制約されると思われるため、メルマガ等を利用した防犯啓発活動をより重視し、密にならない活動を通じて、更なる目標の達成に努めていく。
R4年度	2（実績評価）	・目標値を十分達成できており、諸般の交通安全啓発活動が実績につながっていると推察できる。
	（次年度修正点）	・今後についても、当該実績値を維持できるよう基本的には現状の活動を踏襲しつつ、新しい活動を取り入れていく。
R5年度	1（実績評価）	・前年度と比較し、件数が増加したが目標は達成している。
	（次年度修正点）	・これまで新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、啓発活動に一定の制約があったが、令和5年度からは制約が無くなるため、より啓発活動に注力し、目標の達成とともに前年比減を目指していく。
R6年度	2（実績評価）	・目標を十分に達成できており、諸般の交通安全啓発活動が実績に繋がっている。
	（次年度修正点）	・今後についても、継続して目標達成となるよう基本的には現状の活動を踏襲し、新しい活動内容についても検討していく。
R7年度	1（実績評価）	・目標を十分達成できており、啓発活動等の地道な活動が実績につながっている。
	（次年度修正点）	・目標の達成とともに前年比減を目指し、引き続き啓発活動に注力していく。
R8年度	2（実績評価）	・目標を十分達成できており、関係機関と連携した交通安全啓発活動が実績につながっている。
	（次年度修正点）	・継続して目標達成となるよう、現状の交通安全啓発活動に注力していく。

中間評価	1（達成状況）	A
	（実績評価）	・実績値に増減はあるものの、目標は達成しており、地道な活動が実績につながっている。
	（今後の対応）	・目標の達成とともに前年比減を目指し、引き続き青色防犯バトロール等の啓発活動に注力していく。
	2（達成状況）	A
評価	（実績評価）	・関係機関と連携した交通安全啓発活動が実績につながっている。
	（今後の対応）	・前年比減を目指し、関係機関と連携した交通安全啓発活動を引き続き実施していく。

担当課		危機対策課		施策1～5の全指標達成率								
政策目標		1	安全で安心して暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野		5	消防体制の強化（消防団体制の強化・消防水利の充実）		指標数	9	9	9	9	9		
目指す姿		市民が火災を始めとする災害から守られ安心して暮らすことができる		達成数	5	6	6	0	0	0		
				達成率	55.6%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%			

1 成果指標（KPI）					指標数	4	4	4	4	4			
					達成数	1	3	2	0	0			
					達成率	25.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
					基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
成果指標 1	消防団員充足率＜4月1日時点＞				R2	目標値	100	100	100	100	%	危機対策課	
					99.2%	実績値	97.6	93.5	88.9				
						評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方					災害等発生時に市民の生命・財産を守る消防活動を安全かつ円滑に実施するため、消防団員充足率を100%に設定した。								
					基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
成果指標 2	公務災害件数				R1	目標値	0	0	0	0	0	件	危機対策課
					1件	実績値	3	0	3				
						評価	× 未達成	○ 達成	× 未達成				
目標値の考え方					災害活動・消防団活動を安全に実施することを目標に、公務災害発生件数を0に設定した。								
					基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
成果指標 3	夜警の実施率				R1	目標値	100	100	100	100	100	%	危機対策課
					100%	実績値	66.1	100	100				
						評価	× 未達成	○ 達成	○ 達成				
目標値の考え方					火災予防広報の実施及び火災発生時での迅速な対応を目標に、夜警実施率を100%に設定した。								
					基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
成果指標 4	消防水利充足率				R1	目標値	76	77	78	84 (79)	85 (80)	%	危機対策課
					75%	実績値	76	83	83				
						評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
											以上		
目標値の考え方					消防水利不足解消を図るため、未整備地区に消防水利を整備することを目標に、消防水利充足率を80%以上とした。								

R3年度	1（実績評価）	消防団員条例定数506人に対し、494人の登録となった。	
	（次年度修正点）	分団定数を満たすことが困難な地域もあるが、地域・分団からの意見を聞き取り、地域に過度な負担がかからないよう実情に応じた消防団員の募集を働きかけていく。	
	2（実績評価）	火災出動時での怪我2件に加え、地域の依頼により警戒出動した際の怪我1件、計3件の公務災害が発生してしまった。	
	（次年度修正点）	災害活動中の安全確認の徹底・幹部会議等で事故防止の啓発等を行い、公務災害の発生防止に努める。	
R4年度	3（実績評価）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた夜警日数のうち19日間を中止としたため、目標を達成できなかった。	
	（次年度修正点）	新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、適切な夜警巡回を実施する。	
	4（実績評価）	消防水利未整備地区に4基の消火栓を新設し、目標を達成することができた。（整備地区547÷全地区718×100）	
	（次年度修正点）	消防水利未整備地区への消火栓等の新設について、今後も引き続き伊東消防署・伊東市水道課と協議検討していく。	
R5年度	1（実績評価）	消防団条例における定数506人に対し、473人の登録となった。	
	（次年度修正点）	若年層消防団員等の減少に伴い、地域によっては分団定数を満たすことができない分団も出てきていることから、引き続き消防団員の募集を働きかけていくことに加え、現状に見合った条例定数の見直しも含めた協議をしていく。	
	2（実績評価）	消防団活動中の公務災害は発生しなかった。	
	（次年度修正点）	引き続き、消防団活動中の安全確認の徹底、事故防止啓発を図り公務災害の発生防止に努める。	
R5年度	3（実績評価）	予定していた日数の夜警を実施できた。（雨天等による中止を除く）	
	（次年度修正点）	引き続き、適切な夜警活動の実施に努める。	
	4（実績評価）	消防水利未整備地区に2基の消火栓を新設したため、充足率が前年比0.3%増加したが、年間設置目標の5基を達成することは出来なかったため、年間充足率1%の上昇には届かなかった。（整備地区595÷全地区718×100）	
	（次年度修正点）	令和5年度実績値が当初設定していた令和7年度目標値を上回ったため、さらなる充足率の向上を目標として、令和6年度、令和7年度の目標値を上方修正する。	

中間評価	1（達成状況）	D
	（実績評価）	令和2年度以降、団員の定数確保が難しく、条例定数である506人を切り、年々団員数が減少となった。
	（今後の対応）	分団定数をはじめとした、分団の抱える諸問題を聞き取り、定数の削減及び消防団活動の見直しを団本部と協議していく。
	2（達成状況）	C
	（実績評価）	災害活動中の安全確認の徹底を周知してきたものの、令和4年度以外、複数回の公務災害が発生してしまい、公務災害の発生を食い止めることが出来なかった。
	（今後の対応）	災害活動中の安全確認の徹底・幹部会議等で事故防止の啓発等を行い、公務災害の発生防止に努める。
評価	3（達成状況）	B
	（実績評価）	令和3年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、日数を減らして実施した。令和4年度以降は、通常通りの期間について夜警を実施することができた。（雨天等による中止を除く）
	（今後の対応）	引き続き、適切な夜警活動の実施に努める。
	4（達成状況）	A
（実績評価）	令和4年度に消防水利充足率の算出を見直した結果、整備地区が増加し、充足率が上昇した。各年度、年間1%の充足率を上昇させるため、年間5基の新設消火栓を設置目標としていたが、令和3年度4基、令和4年度2基、令和5年度2基となり各年度1%の上昇には届かなかった。	
（今後の対応）	令和5年度実績値が当初設定していた令和7年度目標値を上回ったため、さらなる充足率の向上を目標として、令和6年度、令和7年度の目標値を上方修正する。	

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち

- | | |
|--------|-------------|
| 施策 2－1 | 地域医療の充実 |
| 施策 2－2 | 健康づくり支援 |
| 施策 2－3 | 出産・子育て支援の充実 |
| 施策 2－4 | 保育及び幼児教育の充実 |
| 施策 2－5 | 高齢者福祉の充実 |
| 施策 2－6 | 障がい者福祉の充実 |
| 施策 2－7 | 地域福祉の充実 |
| 施策 2－8 | 多様性のある社会の実現 |
| 施策 2－9 | 保険・年金制度の運営 |

担当課	健康推進課	施策2－1の全指標達成率					
政策目標	2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	1 地域医療の充実	指標数	9	9	9	9	9
目指す姿	市民・観光客等が質の高い医療を受けることができる	達成数	8	7	8	0	0
		達成率	88.9%	77.8%	88.9%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	1	1	1	1	1			
		達成数	1	1	1	0	0			
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%			
成果指標	地域医療支援病院の継続	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	要件達成	要件達成	要件達成	要件達成			要件達成
		承認要件	実績値	要件達成	要件達成	要件達成				
		達成	評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
目標値の考え方	地域医療支援病院の継続は、「紹介率80%以上」、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」、「紹介率50%以上かつ逆紹介率70%以上」のいずれかを満たすことが承認要件の一つとされていることから、目標値は数値目標とはせず要件達成とした。									
R3年度	（実績評価）・地域医療支援病院の承認要件について、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」を達成することができた。 （次年度修正点）・今後も医療機関の機能分担について啓発を行い、市内・市外の医療機関との連携を密に行うことにより病診連携を進めていく。									
R4年度	（実績評価）・地域医療支援病院の承認要件について、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」を達成することができた。 （次年度修正点）・今後も医療機関の機能分担について啓発を行い、市内・市外の医療機関との連携を密に行うことにより病診連携を進めていく。									
R5年度	（実績評価）・地域医療支援病院の承認要件について、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」を達成することができた。 （次年度修正点）・今後も医療機関の機能分担について啓発を行い、市内・市外の医療機関との連携を密に行うことにより病診連携を進めていく。									
中間評価	（達成状況）	A								
	（実績評価）	・地域医療支援病院の承認要件について、「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」を達成することができた。								
	（今後の対応）	・医療機関の機能分担について引き続き啓発していき、地域の診療所と連携を図りながら病診連携を進めていく。								

担当課		施策2-2の全指標達成率						
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	2	健康づくり支援	指標数	19	19	19	20	20
目指す姿		市民がライフステージに合った、健康的でいきいきとした生活を送ることができる	達成数	4	4	6	0	0
			達成率	21.1%	21.1%	31.6%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	1	1	1	2	2
			達成数	0	0	0	0	0
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

成果指標 1	健康寿命（お達者度）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		H28	目標値	男性18.08 女性20.84	男性18.22 女性20.93	男性18.37 女性21.01	男性18.51 女性21.10	男性18.65 女性21.19	年	健康推進課
		男性 17.48年 女性 20.30年	実績値	—	—	—	—	—		
			評価	—	—	—	—	—		

成果指標 1	お達者年齢	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		※1	目標値	—	—	—	—	—	歳	健康推進課
			実績値	男性79.0 女性84.2	男性78.8 女性84.2	公表時期未定				
			評価	—	—	—	—	—		

目標値の考え方 長く健康で自立した生活を送るため、静岡県過去の公表資料を基に推計した将来予測値を設定。今後、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていく。

成果指標 2	健康意識（いとう健康マイレージ参加者数）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	人	健康推進課
		17,550人	実績値	16,032	16,701	17,014				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				

目標値の考え方 健康づくりに取り組むきっかけとし、各種健康診断やがん検診等の受診促進と、健康教室や介護予防活動などへの参加を通じ運動習慣を持つ人の増加につなげることで、伊東市民の健康意識の向上と健康寿命の延伸を図る。

R5年度 2（実績評価） ・運動教室や健康相談などが再開できたことや医療機関への受診控えも少なくなり参加者の増加傾向が見られたが、健診受診者はコロナ禍以前までの状態には回復しなかったことにより、目標は未達成となった。
（次年度修正点） ・健康マイレージ対象事業である検（健）診や健康講座の周知を図り、健康づくりに取り組む市民を増やす。

中間評価	1（達成状況）	—
	（実績評価）	・お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なるお達者年齢にて管理していくこととなった。
	（今後の対応）	・新たな成果指標としてお達者年齢を新設する。目標値は、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていくため、「—」とする。
	2（達成状況）	B-

（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため健（検）診の受診控えや健康講座などが中止されていたが、令和5年度は対象事業である健（検）診や講座等が全て再開したことにより利用者が増加したものの、目標達成とはならなかった。
（今後の対応）	・健康マイレージの対象事業である健（検）診や健康講座の周知を図るため、チラシの内容の改善やメールマガジンなどの活用などを検討し、健康づくりに取り組む市民を増やす。

※1 お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なるお達者年齢にて管理していくこととなったため、成果指標を変更する。令和3年度以降の実績を集計し、令和8年度以降の目標値を推計していく。

担当課	子育て支援課		施策2-3の全指標達成率					
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	3	出産・子育て支援の充実	指標数	16	16	16	16	16
目指す姿		子育て世代が安心して出産ができ、心身共に健やかに子育てができる	達成数	7	9	12	0	0
		子どもが心身ともに健やかに成長できる	達成率	43.8%	56.3%	75.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	2	2	2	2	2
			達成数	1	1	1	0	0
			達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

成果指標 1	子育てを楽しみと思う親の割合 （乳幼児健康診査アンケート）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	91.0	92.0	93.0	94.0			95.0
		90.5%	実績値	93.9	94.2	94.3				
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
目標値 の 考え方	子育てを楽しみと思う親の割合のうち、10か月児健診アンケートのみでの直近3年間が92%前後で推移していることから、10か月児、1歳6か月児、3歳児健診の3つのアンケートで集計した場合の基準値90.5%を踏まえ、各年度1%程度上昇することを見込んで目標値を95%とした。									

成果指標 2	「出産・子育て支援の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	63.5	65.0	66.5	68.0			70.0
		62.0%	実績値	55.1	53.0	57.1				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値 の 考え方	基準値である令和2年度の結果をもとに、各年度1.5%程度上昇することを見込んで目標値を70%とした。									

R3年度	1（実績評価）	・妊娠期からの切れ目ない充実したサポート体制により、目標を達成できた。 （次年度修正点）・産前、産後サポート等新たな事業も追加して展開していくため、更なる充実を図る。								
	2（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大による各種事業の開催中止や規模縮小の影響等により、市民満足度の目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症対策を行い、各種事業を通常通り開催することなどにより、出産・子育て支援の充実を図る。								

R4年度	1（実績評価）	・妊娠期からの切れ目ない支援体制の充実により、子育て期に子育てを楽しむ親の割合の目標を達成することができた。 （次年度修正点）・伴走型支援の充実や産後ケア、産前産後サポートの新規事業の展開により更なる充実を図る。								
	2（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大による各種事業の開催中止や規模縮小の影響等により、市民満足度の目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・出産・子育て支援に関する情報を市民に対して適切かつ迅速に発信し、各種事業を円滑に実施することにより、出産・子育て支援の充実を図る。								

R5年度	1（実績評価）	・妊娠期からの切れ目のない支援体制の充実により、子育て期に子育てを楽しみと思う親の割合の目標値を達成することができた。 （次年度修正点）・現在、実施している事業の見直しにより、子育て世代が子育てを楽しみと感じられるよう、支援の充実を図る。								
	2（実績評価）	・目標値を達成できなかったが、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、各種事業を通常通り開催することができたことにより、満足度は過去3年間で最も高い数値となった。 （次年度修正点）・出産・子育て支援に関する情報について、各種媒体により市民への発信力を高め、各種事業を円滑に実施することにより、出産・子育て支援の充実を図り、市民満足度を高めていきたい。								

中間 評価	1（達成状況）	B+								
	（実績評価）	・毎年度の目標値は達成しており、実績値も伸びてきている。								
	（今後の対応）	・妊娠、出産、子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ支援体制の充実により子育てが楽しいと感じる親の割合を増やしていく。								
	2（達成状況）	D								
	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による各種事業の開催中止や規模縮小の影響等により、市民満足度は一貫して低い数値となっており、目標値を達成できなかった。								
	（今後の対応）	・出産・子育て支援に関する情報について、SNSやポスター、横断幕等の各種媒体により市民への発信力を高め、各種事業を円滑に実施することにより、出産・子育て支援の充実を図り、市民満足度を高めていきたい。								

担当課		幼児教育課	施策2-4-4の全指標達成率								
政策目標			2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち							
施策分野			4	保育及び幼児教育の充実							
目指す姿			子どもたちが健やかに成長することができる			達成数	9	8	9	0	0
			子育て世代が子育てと仕事が両立できる			達成率	64.3%	57.1%	64.3%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3	3	
				達成数	1	0	1	0	0	
				達成率	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	

成果指標 1	待機児童数<4月1日時点>	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2 5人	目標値	2	0	0	0	0	人	幼児教育課
			実績値	1	1	0				
			評価	○ 達成	× 未達成	○ 達成				

目標値の考え方	待機児童数は、令和元年度11人、令和2年度5人と減少傾向にあること、また、保育所入所申込数が、令和2年度から令和3年度にかけて減少傾向にあり、少子化の進行も見据えて、令和4年度に目標達成を見込んだ。									
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標 2	園での保育に満足している保護者の割合 (保育園・幼稚園評価アンケート)	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1 99%	目標値	99	99	99	99	100	%	幼児教育課
			実績値	97.4	96.6	96.2				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				

目標値の考え方	保育園保護者アンケートに基づき、園での保育に満足している保護者の割合は、令和元年度が97%、令和2年度が98%であり、安心して子どもを預けることができる園運営が概ねとれていることを考慮し、上昇率を横ばいとした。また、幼稚園保護者アンケートでは令和元年度99%であるため100%を目標とした。									
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標 3	多様な保育への満足度 (保育園・幼稚園評価アンケート)	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1 86%	目標値	87	89	91	93	95	%	幼児教育課
			実績値	84.2	87.1	76.5				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				

目標値の考え方	保育園保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は、令和元年度が86%、令和2年度が87%であり、事業によっては保育体制の見直し等を図り、多様化する子育て世帯のニーズに応じた保育サービスの向上を目指すことを考慮し、上昇率を2%とした。									
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R3年度	1 (実績評価)	・保育士不足の要因により、待機児童が1人発生した。 (次年度修正点) ・特別な支援が必要な児童(障害児・医療的ケア児)が増えていることから、受入れ可能な施設の確保が難しい課題があり、課題改善に努める。								
	2 (実績評価)	・幼稚園・保育園で実施した保護者アンケート結果の平均値(幼稚園99.2%・保育園95.5%) (次年度修正点) ・園で実施している職員研修の充実を図る、職員の自己評価の方法を見直すなど、保育の質の向上に努めたい。								
	3 (実績評価)	・保育園保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は84.2%であった。 (次年度修正点) ・就労形態の多様化により、多様な保育のニーズが高まる中で、延長保育の実施がない公立園で開所時間の延長を検討するなど、保育サービスの向上を図る。								

R4年度	1 (実績評価)	・手厚い支援が必要な児童(医療的ケア児)の受入れが困難であることから、待機児童が1人発生した。 (次年度修正点) ・手厚い支援が必要な児童の受入れ施設の確保が課題となっているため課題改善に努めるとともに、保護者への適切な情報提供の体制強化に努める。								
	2 (実績評価)	・幼稚園・保育園で実施した保護者アンケート結果の平均値(幼稚園98.2%・保育園94.9%) (次年度修正点) ・園で実施している職員研修の充実を図る、職員の自己評価の方法を見直すなど、保育の質の向上に努めたい。								
	3 (実績評価)	・保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は87.1%であった。園ごとの評価においては、民間園では多様な保育サービスの実施が充実しており、高い満足度を得ている。 (次年度修正点) ・就労形態の多様化により、多様な保育のニーズが高まる中で、延長保育の実施がない公立園で開所時間の延長を検討するなど、保育サービスの向上を図る。								

R5年度	1 (実績評価)	・待機児童は0人だった。 (次年度修正点) ・医療的ケア児の受入れガイドラインを作成し、医療的ケア児のスムーズな受入れが出来るように努める。								
	2 (実績評価)	・幼稚園・保育園で実施した保護者アンケート結果の平均値(幼稚園99.0%・保育園93.3%) (次年度修正点) ・園で実施している職員研修の充実を図る、職員の自己評価の方法を見直すなど、保育の質の向上に努めたい。新たに導入したICTにより、保護者ニーズに対応して活用していきたい。								
	3 (実績評価)	・保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度は76.5%であった。園ごとの評価においては、広野・富士見・八幡野では病児保育が未実施のため、満足度が10%前後減少したことが影響している。 (次年度修正点) ・就労形態の多様化により、多様な保育のニーズが高まる中で、延長保育未実施の公立園での開所時間延長の検討や病児保育未実施の公立園での実施体制の計画など、保育サービスの向上を図る。								

中間評価	1 (達成状況)	B+								
	(実績評価)	・保育士不足や医療的ケア児の受入れが困難なため、R3・R4は待機児童がいたが、R5においては、待機児童が0人であった。								
	(今後の対応)	・医療的ケア児の受入れガイドラインを作成し、医療的ケア児のスムーズな受入れが出来るように努める。								
	2 (達成状況)	B-								
	(実績評価)	・幼稚園・保育園で実施した保護者アンケート結果の3年間の平均値(幼稚園98.8%・保育園94.4%)								
	(今後の対応)	・今までの園内での取組に加えて、ICTを利用した活用により、保護者のニーズに応じて目標となる満足度を達成したい。								

評価	3 (達成状況)	D								
	(実績評価)	・保護者アンケートに基づき、多様な保育への満足度の3年間の平均値 82.6%								
	(今後の対応)	・就労形態の多様化により、多様な保育のニーズが高まる中で、延長保育未実施の公立園での開所時間延長の検討や病児保育未実施の公立園での実施体制の計画など、保育サービスの向上を図る。								

担当課	高齢者福祉課・健康推進課		施策2－5の全指標達成率							
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	5	高齢者福祉の充実	指標数	21	21	21	21	21		
目指す姿	高齢者が地域の中でいきいきと生活できる		達成数	5	6	5	0	0		
	地域において住民相互で支え合い暮らしすることができる		達成率	23.8%	28.6%	23.8%	0.0%	0.0%		
1 成果指標（KPI）			指標数	3	3	3	3	3		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	元気な高齢者の割合<4月1日時点> (介護保険第1号被保険者のうち、要介護・要支援認定を受けていない高齢者の割合)	基準値 R2 84.1%	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
			目標値	84.0	84.0	84.0	84.0	84.0	%	高齢者福祉課
			実績値	83.1	82.8	82.3				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	本市は、令和3年度が高齢者人口のピークと推計され、以降は高齢者の中での高齢化が進むため、一般的には要介護認定を受ける割合が増えるものであるが、介護予防の取り組みを一層推進することによりその割合を維持させる。									
成果指標 2	健康寿命（お達者度）	基準値 H28 男性 17.48年 女性 20.30年	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
			目標値	男性18.08 女性20.84	男性18.22 女性20.93	男性18.37 女性21.01	男性18.51 女性21.10	男性18.65 女性21.19	年	健康推進課
			実績値	—	—	—	—	—		
			評価	—	—	—	—	—		
成果指標 2	お達者年度年齢	基準値 ※6	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
			目標値	—	—	—	—	—	歳	健康推進課
			実績値	男性79.0 女性84.2	男性78.8 女性84.2	公表時期未定				
			評価	—	—	—	—	—		
目標値の考え方	長く健康で自立した生活を送るため、静岡県過去の公表資料を基に推計した将来予測値を設定。今後、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていく。									
成果指標 3	生活支援サポーターの養成者数 (目標値は5年間累計)	基準値 R1 45人 (単年)	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
			目標値	40	40	40	40	40	人	高齢者福祉課
			実績値	16	29	23				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	高齢者の日常生活を支援するボランティアである「生活支援サポーター」を養成し、地域の介護基盤の向上を図る。生活支援サポーターは既に226人が養成されているが、高齢者数の増加に対応するために毎年40人のサポーターを養成し、地域の支え合い活動及び介護予防を支援する。									
R3年度	1 (実績評価) ・団塊の世代の高齢化と新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出控えや介護予防事業等の一時休止に伴い、目標値より0.9ポイントの減少となった。 (次年度修正点) ・新型コロナウイルス感染症に伴う介護予防事業中止は令和4年度も見込まれるため、チラシやケーブルテレビを活用した運動機会の提供を図る等の工夫をし、コロナ禍においても平常時に近い生活を送れるよう努める。									
	2 (実績評価) (次年度修正点)									
	3 (実績評価) ・年度当初は養成講座を3回実施する予定だったが、3回のうち2回がまん延防止等重点措置期間に予定していたことから中止したため、目標未達成となった。 (次年度修正点) ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮した上で、養成講座を実施できるよう努める。									
R4年度	1 (実績評価) ・団塊の世代の高齢化に加え、コロナ禍における外出控えや交流機会の不足から心身の状態悪化から、目標値を下回ることとなった。 (次年度修正点) ・感染状況を考慮しながら、積極的に介護予防事業を実施し、フレイル予防・重症化防止を図る。									
	2 (実績評価) (次年度修正点)									
	3 (実績評価) ・コロナ禍の影響などから、目標値を下回ってしまったが、予定していた講座3回を実施することができた。 (次年度修正点) ・令和5年度からは、これまで養成してきたボランティアのフォローアップを行いつつ、地域での「助け合い活動」へと繋げていくために必要な、核となるグループ作りの勉強会を開催していく。									
R5年度	1 (実績評価) ・団塊の世代の高齢化に加え、コロナ禍における外出控えや交流機会の不足から心身の状態悪化から、目標値を下回ることとなった。 (次年度修正点) ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、外出や交流の機会等が増えていくことから、積極的に介護予防事業を実施し、フレイル予防・重症化防止を図る。									
	2 (実績評価) ・ (次年度修正点)									
	3 (実績評価) ・養成数の目標値を下回ったが、これまで養成したボランティアのフォローアップに力を入れ、地域での「助け合い活動」に繋がる周知が行えた。 (次年度修正点) ・生活支援サポーターの養成講座を圏域単位ではなく、自治会、町内会等の小さい単位で実施し、地域での「助け合い活動」へスムーズに移行できるよう体制を整えていく。									
中間評価	1 (達成状況)	B-								
	(実績評価)	・コロナ禍における外出控えや交流機会の不足から心身の状態悪化から、目標値を下回ることとなった。								
	(今後の対応)	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、外出や交流の機会等が増えていくことから、積極的に介護予防事業を実施し、フレイル予防・重症化防止を図り、目標値の達成を目指す。								
	2 (達成状況)	—								
	(実績評価)	・お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なるお達者年齢にて管理していくこととなった。								
	(今後の対応)	・新たな成果指標としてお達者年齢を新設する。目標値は、令和3年度以降の実績を基に、令和8年度以降の推計をしていくため、「—」とする。								
	3 (達成状況)	D								
	(実績評価)	・目標値も大事だが、養成講座の内容について地域の課題に応じた内容で開催する必要があると思われる。								
	(今後の対応)	・生活支援サポーターの養成講座を圏域単位ではなく、自治会、町内会等の小さい単位で実施し、地域での「助け合い活動」へスムーズに移行できるよう体制を整えていく。								

※6 お達者度は令和5年度に公表された令和2年度実績をもって廃止となり、令和6年9月9日に公表された令和3年度実績からは、算出方法が異なるお達者年齢にて管理していくこととなったため、成果指標を変更する。令和3年度以降の実績を集計し、令和8年度以降の目標値を推計していく。

担当課		社会福祉課		施策2－6の全指標達成率								
政策目標	2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7			
施策分野	6	障がい者福祉の充実		指標数	13	13	13	13	13			
目指す姿	障がい者（児）・その家族にとって障がい者（児）が安心して生活することができる			達成数	9	8	11	0	0			
				達成率	69.2%	61.5%	84.6%	0.0%	0.0%			
1 成果指標（KPI）				指標数	4	4	4	4	4			
成果指標 1	相談支援事業所の相談件数	基準値	R1	R3	3	3	3	0	0	単位	担当課	
				R4	75.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%			
				R5	目標値	8,100	8,200	8,300	8,400			8,500
				実績値	8,295	10,467	9,328					
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
目標値の考え方	平成28年度から令和元年度までの前年度対比では、その年度により増減が異なるが、総数全体は増加している。一方で相談を受ける事業所については新規事業所がなく、職員体制の変更がない状況である。そのため、令和元年度から毎年約100人の増加を見込んだ。											
成果指標 2	障がい福祉サービス支給決定者数（実績）	基準値	R1	R3	603	610	617	624	630	単位	担当課	
				R4	587人	実績値	630	655	677			
				R5	目標値	603	610	617	624			630
				実績値	587人	630	655	677				
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	以上				
目標値の考え方	障がい福祉サービス支給決定者数は平成29年度559人、平成30年度573人、令和元年度587人と毎年10数人程度増加している。障がい者の高齢化（65歳到達）により、障害福祉サービスから介護保険のサービスへの移行も毎年微増している。そのため、令和3年度から毎年度7人程度の増加を見込んだ。											
成果指標 3	市内企業の障がい者雇用率（年度末数値）	基準値	R1	R3	2.10	2.15	2.50	2.60	2.68	単位	担当課	
				R4	2.02%	実績値	2.29	2.07	2.12			
				R5	目標値	2.10	2.15	2.50	2.60			2.68
				実績値	2.02%	2.29	2.07	2.12				
				評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成	以上				
目標値の考え方	令和3年4月に法定雇用率が2.3%に変更される。本市の実績は平成30年度が1.96%、令和元年度が2.02%となっている。その上昇率に近い0.05%を毎年度の上昇率と見込み、令和3年度を2.10%とし、計画期間内での目標達成を目指し、毎年度0.05%の上昇率とした。障がい者法定雇用率が令和6年4月に2.5%、令和8年7月に2.7%に段階的に引き上げられることが令和5年1月に通知された。これに伴い令和5年から令和7年の数値を新たな法定雇用率に合わせた数値目標とする。											
成果指標 4	障がい福祉サービス利用後の一般就労者数	基準値	R1	R3	2	2	2	4	5	単位	担当課	
				R4	3人	実績値	1	3	7			
				R5	目標値	2	2	2	4			5
				実績値	3人	1	3	7				
				評価	× 未達成	○ 達成	○ 達成	以上				
目標値の考え方	第6期障がい福祉計画（令和3年度から令和5年度）では令和元年度実績を基に国の基本方針（1.23%以上）を踏まえ3年度で6人としている。また、同計画でもハローワーク等の関係機関との連携を強化し、一般就労への移行を努めることとしている。そのため、令和6年度以降の一般就労移行者を増やすため、令和6、7年度の数値を設定した。											
R3年度	1（実績評価）	・相談支援事業所の周知が進み、相談件数は増えている。										
	（次年度修正点）	相談支援事業所の人員配置等に変更はないため、次年度の修正はなし。										
	2（実績評価）	・児童の事業所が新規開設したことが一因と考えられるが、支給決定者数が目標値を上回った。										
	（次年度修正点）	令和3年度の上昇が一時的なものか検証するため、次年度の修正はなし。										
	3（実績評価）	・障がい者雇用率が企業努力により、大幅に上昇した。										
R4年度	（次年度修正点）	コロナ禍における、企業の障がい者雇用の動向を確認するため、次年度の修正はなし。										
	4（実績評価）	・2人が一般就労したが、そのうち1人が退職し、障害福祉サービスを再度利用している。新型コロナウイルス感染症の影響で障がい者の一般就労は厳しいが、今後も関係機関と連携していく。										
	（次年度修正点）	次年度の修正はなし。										
	1（実績評価）	・電話による相談件数が多くなっている。										
	（次年度修正点）	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、電話相談が増加している。今後も相談支援事業所の周知を行う。										
R5年度	2（実績評価）	・障害福祉サービス利用者数は増加している。										
	（次年度修正点）	今後も相談支援事業所等からの報告を受け、障がい福祉サービスの必要な方へ支給決定を行う。										
	3（実績評価）	・令和3年に企業の合併等により、ハローワーク伊東に報告する対象企業が増えたことにより、障がい者雇用率が増えた。しかし、令和4年は本社の譲渡等により、同報告対象企業が変更したため、障がい者雇用率が大きく減少した。										
	（次年度修正点）	ハローワーク伊東等と連携を強化し、法定雇用率の確保を目指す。										
	4（実績評価）	・障害者就労・生活支援センターが2人の就労の支援を行った。										
中間評価	（次年度修正点）	引き続き、ハローワーク伊東等と連携を図る。										
	1（実績評価）	・対面相談だけでなく、電話相談等の多様な相談手段により、相談件数は目標値を超えている。										
	（次年度修正点）	相談件数が以前より増えているが、相談支援事業所及びその相談員が増えないため、修正はなし。										
	2（実績評価）	・令和5年度中に新規障害児通所支援事業所の開設もあり、障害児福祉サービスの利用者が前年度より増加した。										
	（次年度修正点）	今後も相談支援事業所等からの報告を受け、障害福祉サービスの必要な方へ支給決定を行う。										
評価	3（実績評価）	・市内企業の多くが従事者数100人以下のため、法定雇用率を達成しなくても納付金の支払対象ではない。そのため、障がい者雇用には理解をしても、雇用まで達していない状況である。										
	（次年度修正点）	ハローワーク伊東等と連携を強化し、法定雇用率の確保を目指す。										
	4（実績評価）	・障害者就労・生活支援センターや就労継続支援事業所の支援により、大幅に一般就労移行者が増えた。										
	（次年度修正点）	引き続き、ハローワーク伊東等と連携を図る。										
	1（達成状況）	A										
中間評価	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染予防から、電話相談等の対面以外の相談が増えたことにより、相談件数も増加している。										
	（今後の対応）	・相談件数が以前より増えているが、相談支援事業所及びその相談員が増えない状況である。相談支援事業所との連携を強化し、相談内容を共有していく。										
	2（達成状況）	A										
	（実績評価）	・児童の数が減少しているにもかかわらず、中間評価時点では、障害児福祉サービスの利用者については、その影響が少ない。										
	（今後の対応）	・障害福祉サービス等の必要な方には、相談支援事業所と協議し、支給決定を行う。										
評価	3（達成状況）	C										
	（実績評価）	・市内企業の多くが従事者数100人以下のため、法定雇用率を達成しなくても納付金の支払対象ではない。そのため、目標値に達していない状況である。										
	（今後の対応）	・ハローワーク伊東等と連携を強化し、障がい者の法定雇用率を高くしていく。										
	4（達成状況）	B+										
	（実績評価）	・障害者就労・生活支援センターや就労継続支援事業所の支援により、一般就労への移行者が増えてきている。										
	（今後の対応）	・障害者就労・生活支援センター等により、一般就労が継続できる支援・相談を行っていく。										

担当課		社会福祉課		施策2-7の全指標達成率							
政策目標		2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち			年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		7	地域福祉の充実			指標数	14	14	14	14	14
目指す姿		支援を必要とする人が住み慣れた地域の中で支え合い共に暮らすことができる 地域の多くの人が地域福祉活動等へ参加することで地域が活性化される			達成数	9	8	9	0	0	
					達成率	64.3%	57.1%	64.3%	0.0%	0.0%	

1 成果指標（KPI）					指標数	2	2	2	2	2
成果指標 1	「地域内の助け合いなどの地域福祉の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	64.0	64.0	64.0	65.0			65.0
		63.2%	実績値	64.3	62.4	64.1				
		評価	○ 達成	× 未達成	○ 達成					
目標値の考え方		平成30年度実績63.4%、令和元年度実績59.0%で、令和元年度以前3年間の平均割合が61.53%。年度により評価に差があるため、安定した評価が得られるよう業務に取り組み、基準値から2%以上の上昇が達成できるよう65.0%以上とした。								

成果指標 2	ボランティアセンターによるボランティア活動あつせん件数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	25	30	40	50			60
		18件	実績値	8	7	9				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方		平成30年度実績34件、令和元年度実績18件と利用数が減少傾向にあることから、地域の実情と利用者のニーズ把握に努め、ボランティア活動の利用増を目指していくため、毎年10件増の目標値設定とした。								

R3年度	1（実績評価）	・目標値を0.3%上回り目標に達することができた。 （次年度修正点）・地域福祉に関連する各個別計画を推進していくことで、評価が安定するよう努めていく。									
	2（実績評価）	・続くコロナ禍の影響により活動にも制限が見られ、件数を伸ばすことができなかった。 （次年度修正点）・行動自粛が久しく続き、活動に関する認知度の低下が懸念されることから、事業の周知に努めていく。									

R4年度	1（実績評価）	・コロナ禍で閉塞的な日常、不安を感じる日々が長く続き、多くのことが疎遠になってしまったことが、一人ひとりの不安を生み「満足していない」数値に現れたと思われる。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症の影響で人と人との関わり合いが薄れ、相談や支援が行き届かなくなってきたことから、まずは地域福祉に関する広報活動を積極的に行い、関わり合いができる環境に戻るよう努めていく。									
	2（実績評価）	・コロナ禍であったこともあり、積極的な周知活動等は控えていたため、利用数が伸びることはなかった。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症が収束してきたことを踏まえ、ボランティア活動に関する周知を積極的に行い、利用者の増加を図る。									

R5年度	1（実績評価）	・地域福祉に関する取組が評価され、1年ぶりに実績値が64%台に回復し、目標値を0.1%ながら上回ることができた。 （次年度修正点）・新たに策定された地域福祉計画を推進していくことで、目標値の達成に努めていく。									
	2（実績評価）	・個人からの依頼は減ったまま回復せず、件数を伸ばすことが出来なかった。 （次年度修正点）・引き続き事業所との情報交換や各種催しにおいてニーズ調査を行うなどの取組を検討していく。									

中間評価	1（達成状況）	B+									
	（実績評価）	・目標値を僅かながら上回っていることから一定の評価は得ているので、今後も地域福祉に関連する施策を展開していく。									
	（今後の対応）	・令和6年度より新たな地域福祉計画の計画期間となるので、当該計画に掲げる施策を推進していくことで、目標値の達成に努めていく。									
	2（達成状況）	D									
評価	（実績評価）	・行政サービス等の充実により、かつてボランティアセンターが担っていた依頼業務が減りつつあること、新型コロナウイルスにより人と人との関わり合いが薄れてきたことが大きな要因と考えられる。									
	（今後の対応）	・他者との住み分けを明確にし、地域との関わり合いを増やしていくことで、ボランティア活動の輪を広げ、地域福祉の充実につなげていく。									

担当課	市民課	施策2－8の全指標達成率					
政策目標	2 誰もが健やかに暮らし活躍できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	8 多様性のある社会の実現	指標数	10	10	10	10	10
目指す姿	市民がお互いの個性と多様性を認め合い、いきいきと暮らすことができる	達成数	5	4	6	0	0
		達成率	50.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	1	1	1	1	1			
		達成数	0	0	0	0	0			
		達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
成果指標	「お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	60.2	61.4	62.6	63.8	65.0	%	市民課
		59.2%	実績値	57.0	54.6	62.0				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現に満足している市民の割合は、令和2年度からの調査項目であり、各年度1％程度の上昇を見込み、65.0％とした。									
R3年度	（実績評価） ・ 令和3年度実施の市民満足度調査結果は実績値57.0％で、目標値及び基準値よりも低い結果となり、「お互いの個性と多様性を認めあう社会の実現」に満足している市民の割合を増やすことができなかった。 （次年度修正点） ・ 各分野の基本的な取組において管理指標目標値を適宜見直し、確実に実行する。									
R4年度	（実績評価） ・ 令和4年度実施の市民満足度調査結果は実績値54.6％で、目標値及び基準値よりも低い結果となり、「お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現」に満足している市民の割合を増やすことができなかった。 （次年度修正点） ・ 各分野の基本的な取組において管理指標目標値を適宜見直し、回数を管理指標としているものについては確実に実行する。									
R5年度	（実績評価） ・ 令和5年度実施の市民満足度調査結果は実績値62.0％で目標値未達成であったが、「お互いの個性と多様性を認め合う社会の実現」に満足している市民の割合を増やすことができた。 （次年度修正点） ・ 引き続き各分野の基本的な取組において管理指標目標値を適宜見直し、回数を管理指標としているものについては確実に実行する。									
中間評価	（達成状況）	B-								
	（実績評価）	・ 未だ目標値を達成していないが、令和5年度は基準値を上回ることができ、3か年の実績値は上昇傾向となった。								
	（今後の対応）	・ 引き続き各分野の基本的な取組において管理指標の目標値を適宜見直し、回数を管理指標としているものについては確実に実行する。								

担当課		保険年金課		施策2－9の全指標達成率						
政策目標		2	誰もが健やかに暮らし活躍できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		9	保険・年金制度の運営		指標数	15	15	15	15	15
目指す姿		制度加入者が制度の理解を深め、生涯にわたり安心して保険・年金サービスを楽しむことができる			達成数	9	9	9	0	0
					達成率	60.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）					指標数	2	2	2	2	2	
					達成数	2	2	2	0	0	
					達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
成果指標 1	制度理解の醸成等を図るための広報による周知		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
			R1	目標値	27	28	29	30	31	回	保険年金課
			26回	実績値	29	30	35				
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				以上		
目標値の考え方	国民健康保険・後期高齢者医療保険・国民年金制度周知に関する広報紙記事掲載回数										
成果指標 2	公平な負担に対する意識向上の取組や適正なサービス受給のための相談会の実施		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
			R1	目標値	54	54	54	54	54	回	保険年金課
			54回	実績値	54	54	60				
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				以上		
目標値の考え方	国民健康保険税納付・後期高齢者医療保険料納付・国民年金受給に関する相談会開催回数										
R3年度	1（実績評価）・市民の理解を深めることを目的として、改正又は新制度についても適正回数の周知を実施したため、目標が達成できた。										
	（次年度修正点）・関係機関との更なる連携を深め、迅速な情報収集に努める必要がある。										
R4年度	2（実績評価）・公平な賦課、納付、給付を目的として、適正回数の相談会等を実施したため、目標が達成できた。										
	（次年度修正点）・納付相談会については、今後も必要な回数を確保するとともに、年金相談会については、遺漏無き案内を可能とするよう、職員のスキルアップに努める必要がある。										
R5年度	1（実績評価）・市民の理解を深めることを目的として、改正又は新制度についても適正回数の周知を実施したため、目標を達成できた。										
	（次年度修正点）・関係機関との更なる連携を深め、迅速な情報収集に努める必要がある。										
	2（実績評価）・公平な賦課、納付、給付を目的として、適正回数の相談会等を実施したため、目標を達成できた。										
	（次年度修正点）・納付相談会については、今後も必要な回数を確保するとともに、年金相談会については、遺漏無き案内を可能とするよう、職員のスキルアップに努める必要がある。										
中間評価	1（達成状況）	A									
	（実績評価）	・市民の理解を深めることを目的として、改正又は新制度についても適正回数の周知を実施したため、目標を達成できた。									
	（今後の対応）	・関係機関との更なる連携を深め、迅速な情報収集に努める。									
評価	2（達成状況）	A									
	（実績評価）	・公平な賦課、納付、給付を目的として、適正回数の相談会等を実施したため、目標を達成できた。									
	（今後の対応）	・納付相談会については、今後も必要な回数を確保するとともに、年金相談会については、遺漏無き案内を可能とするよう、職員のスキルアップに努める。									

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 3 良好な環境が広がり快適に暮らせるまち

- | | |
|--------|---------------|
| 施策 3－1 | 自然との共生社会の推進 |
| 施策 3－2 | 循環型社会の推進 |
| 施策 3－3 | 生活排水対策の充実 |
| 施策 3－4 | 安全でおいしい水の安定供給 |
| 施策 3－5 | 魅力的な都市空間の創造 |
| 施策 3－6 | 公共交通体系の充実 |
| 施策 3－7 | 道路環境の整備 |

担当課		環境課・産業課	施策3－1の全指標達成率					
政策目標		3 良好な環境が広がり快適に暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		1 自然との共生社会の推進	指標数	12	12	12	12	12
目指す姿		市民・事業者・ボランティア団体の一人一人の取組により、豊かな自然や快適な生活環境が維持・保全されている	達成数	6	7	8	0	0
			達成率	50.0%	58.3%	66.7%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	3	3	3	3	3
			達成数	1	1	1	0	0
			達成率	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%

成果指標		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
1	公害の迷惑行為に寄せられる苦情件数	R1 18件	目標値	17	17	16	16	15	件	環境課
			実績値	35	36	28				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施することで、苦情案件への指導が減少する効果を考慮し、目標値を設定									

成果指標		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
2	愛護動物の迷惑行為に寄せられる苦情件数	R1 30件	目標値	26	23	21	18	15	件	環境課
			実績値	37	42	36				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施することによる効果を考慮し、目標値を設定									

成果指標		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
3	伊東市森林整備計画に基づき間伐を行った森林面積（累計）	R1 13.8ha	目標値	16.8	18.3	19.8	22.1	累計22.8	ha	産業課
			実績値	18.1	21.7	23.9				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
目標値の考え方	伊東市内の森林において、過去に実施した間伐面積の年平均が1.54haであったため、各年度の間伐実施面積を1.5ha/年として見込み、累計22.8haと設定した。									

R3年度	1（実績評価）	・公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）引き続き公害に関する迷惑行為をしないように、広報等を通じた啓発等を実施する。							
	2（実績評価）	・飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）引き続き飼養している愛護動物の適切な管理をするように、広報等を通じた啓発等を実施する。							
	3（実績評価）	・R3年度目標の16.8haを上回る18.1haを整備し達成。R4年度も継続して整備を行っていく。 （次年度修正点）特になし							
R4年度	1（実績評価）	・公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）引き続き公害に関する迷惑行為をしないように、広報等を通じた啓発等を実施する。							
	2（実績評価）	・飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）引き続き飼養している愛護動物の適切な管理をするように、広報等を通じた啓発等を実施する。							
	3（実績評価）	・R4年度の目標値18.3haを上回る21.7haを整備し目標達成。 （次年度修正点）令和5年度も継続して整備を行う。							
R5年度	1（実績評価）	・公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）公害に関する迷惑行為をしないように、広報等を通じた啓発等を強化する。							
	2（実績評価）	・飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施したが、苦情件数は目標値を上回った。 （次年度修正点）飼養している愛護動物の適切な管理をするように、広報等を通じた啓発等を強化する。							
	3（実績評価）	・令和5年度の目標値19.8haを上回る23.9haを整備し目標を達成することができた。 （次年度修正点）継続して森林整備を行っていく。							

中間評価	1（達成状況）	D							
	（実績評価）	・公害に関する迷惑行為をしないように広報等を通じた啓発等を実施し、苦情件数は減少しつつあるものの、目標値を上回った。							
	（今後の対応）	・公害に関する迷惑行為をしないように、広報等を通じた周知啓発等を強化する。							
	2（達成状況）	D							
	（実績評価）	・飼養している愛護動物の適切な管理について広報等を通じた啓発等を実施し、苦情件数は減少傾向であるものの、目標値を上回った。							
	（今後の対応）	・飼養している愛護動物の適切な管理をするように、県保健所と連携して広報等を通じた周知啓発等を強化する。							
評価	3（達成状況）	A							
	（実績評価）	・令和3年度から令和5年度の全ての年度で目標値を上回る整備を実施できた。							
	（今後の対応）	・引き続き、伊東市森林整備計画に基づき森林整備を行っていく。							

担当課	環境課	施策3－2の全指標達成率					
政策目標	3 良好な環境が広がり快適に暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	2 循環型社会の推進	指標数	12	12	12	12	12
目指す姿	市民、滞在者、事業者がごみの減量・資源化と温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる	達成数	6	5	6	0	0
		達成率	50.0%	41.7%	50.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2
		達成数	2	2	1	0	0
		達成率	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%

成果指標	可燃ごみの排出量	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
1		R1	目標値	29,696	29,548	29,399	29,250	29,101	t	環境課
		30,758 t	実績値	28,208	28,450	27,781				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
目標値の考え方	過去の可燃ごみ量の実績を元に、今後の将来人口予測とごみの排出抑制施策や減量化施策による効果を踏まえ、目標値を設定									

成果指標	リサイクル率（総資源化量／総ごみ量）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
2		R1	目標値	18.00	18.50	19.00	19.50	20.00	%	環境課
		17.85%	実績値	18.43	18.87	18.04				
			評価	○ 達成	○ 達成	× 未達成				
目標値の考え方	過去のリサイクル率を元に、市民に対する適正な分別の徹底や新たな品目の資源化施策による効果を踏まえ、目標値を設定									

R3年度	1（実績評価）	・コロナ禍による社会経済活動の縮小もあり、目標を達成した。								
		（次年度修正点）・目標達成に向けて引き続き排出量の減量を図る。								
	2（実績評価）	・分別収集の定着により目標を達成した。								
		（次年度修正点）・可燃ごみに混入されているリサイクルできるごみの一層の分別を図る。								
R4年度	1（実績評価）	・コロナ禍からの社会経済活動の回復により排出量は前年度より増加したが、人口減少やリサイクル意識の高まりから、目標を達成した。								
		（次年度修正点）・目標達成に向けて引き続き排出量の減量を図る。								
	2（実績評価）	・分別収集の定着により目標を達成した。								
		（次年度修正点）・可燃ごみに混入されているリサイクルできるごみの一層の分別を図る。								
R5年度	1（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行されたことにより、社会経済活動が本格的に活発化し、排出量の増加も予想されたが、目標を達成することができた。								
		（次年度修正点）・目標達成に向けて、引き続き排出量の抑制を図る。								
	2（実績評価）	・ペットボトルや古紙回収量等の減少から、令和5年度は目標を達成できなかった。								
		（次年度修正点）・「環境衛生だより」やインターネット等の広報手段を用い、リサイクル意識の向上を図る。								

中間評価	1（達成状況）	A										
	（実績評価）	・令和3年度から令和4年度にかけては排出量が増加したが、令和5年度は2万8千 t 以下となり大きく目標を達成することができた。										
	（今後の対応）	・引き続き、排出量を減少させるための施策を推進する。										
	2（達成状況）	C										
	（実績評価）	・令和5年度はリサイクル率が低下してしまったが、これまでに古着の回収や使い捨てカイロの回収等によりリサイクル品目を増やしており、これらについては一定の効果があったと考えている。										
	（今後の対応）	・リサイクル意識の向上を図るため、紙媒体やSNS等での訴求の方法について工夫を重ねていくとともに、資源ごみ集団回収奨励事業報奨金制度についても、機会を捉えて広報していく。										

担当課		下水道課	施策3－3の全指標達成率						
政策目標		3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		3	生活排水対策の充実	指標数	14	14	14	14	14
目指す姿		市民にとって適切な汚水処理により生活環境が向上し、公共用水域の水質保全等が図られ、快適な市民生活を送ることができる		達成数	6	10	6	0	0
				達成率	42.9%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3	3
				達成数	3	3	3	0	0
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

成果指標	環境基準 (河川BOD・ 海域COD)	八代田橋 (BOD)	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
			R1	目標値	2	2	2	2	2			
		渚橋 (BOD)	0.9mg/ℓ	実績値	0.8	0.7	0.7			以下	下水道課	
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
		伊東港中央 (COD)	R1	目標値	3	3	3	3	3	以下	下水道課	
			1.0mg/ℓ	実績値	0.9	0.8	0.9					
				評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成			以下	下水道課	
				R1	目標値	2	2	2	2	2	以下	下水道課
				1.5mg/ℓ	実績値	1.5	1.3	1.4				
					評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				

目標値 の 考え方	目標値は国の環境基準（排出基準）とし、下水道整備により良好な水質を保全し、将来に渡って維持していくことを目標とする。										
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R3年度	(実績評価) ・生活排水を適正に処理することが、公共水域の水質保全や公衆衛生の向上につながるため、下水道未接続世帯に対する個別訪問を実施し水洗化率の向上に努めた。 (次年度修正点) ・下水道接続促進を継続し、公共水域の水質保全に努める。										
R4年度	(実績評価) ・生活排水を適正に処理することが、公共水域の水質保全や公衆衛生の向上につながるため、下水道未接続世帯に対する個別訪問を実施し水洗化率の向上に努めた。 (次年度修正点) ・下水道接続促進を継続し、公共水域の水質保全に努める。										
R5年度	(実績評価) ・生活排水を適正に処理することが、公共水域の水質保全や公衆衛生の向上につながるため、下水道未接続世帯に対する個別訪問を実施し水洗化率の向上に努めた。 (次年度修正点) ・下水道接続促進を継続し、公共水域の水質保全に努める。										

中間評価	(達成状況)	A									
	(実績評価)	・生活排水の適正な処理に努め、環境基準（河川BOD・海域COD）の目標値を達成した。また、公共水域の水質保全や公衆衛生の向上ため、下水道未接続世帯に対する個別訪問を実施するなど下水道接続促進に努めた。									
	(今後の対応)	・今後も下水道接続の促進を継続して進めるとともに、生活排水を適正に処理し公共水域の水質保全に努める。									

担当課		水道課		施策3－4の全指標達成率					
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	4	安全でおいしい水の安定供給		指標数	10	10	10	10	10
目指す姿	水道使用者が安全でおいしい水を安定的に使用することができる			達成数	6	6	7	0	0
				達成率	60.0%	60.0%	70.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	1	1	1	1	1
				達成数	0	0	0	0	0
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

成果指標	「安全でおいしい水の安定供給」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2		目標値	88.4	88.8	89.2	89.6	90.0	%	水道課
		88.0%		実績値	88.1	86.7	85.4				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					

目標値の考え方	本市の水道水に対する市民の満足度は高い水準を維持しているが、湧水及び井戸水が9割を占める本市の水道水を積極的にPRしていくとともに、計画的な老朽化施設の更新や耐震化を推進することにより、さらなる市民満足度の向上が可能と考える。									
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R3年度	(実績評価)・目標値には達しなかったものの、令和3年度実施の市民満足度調査の結果から満足度としては高水準を維持していると考ええる。 (次年度修正点)・水道施設の老朽化が課題となっているため、計画的に水道施設の更新を進め、さらなる満足度の向上に努める。									
R4年度	(実績評価)・令和4年度実施の市民満足度調査の結果から満足度としては高水準を維持していると考えが、結果として目標値には届かず未達成となってしまった。 (次年度修正点)・安心・安全な水の供給を継続するため、計画的な水道施設の更新を進めることにより、さらなる満足度の向上に努める。									
R5年度	(実績評価)・目標値には達しなかったものの、市民満足度調査の結果から高水準の満足度を維持していると考ええる。 (次年度修正点)・安全でおいしい水の安定供給を継続するため、計画的な水道施設の更新を進めることにより、更なる満足度の向上に努める。									

中間評価	(達成状況)	B-	
	(実績評価)	・85%以上のお客様から「満足している」との評価をいただいており、満足度は高いものと考えているが、さらに満足度が向上するように事業運営を図っていく。	
	(今後の対応)	・本市の水道水は湧水や井戸水が9割を占めており、積極的にPRするとともに施設の更新を進め、満足度の向上に努める。	

担当課		都市計画課		施策3－5の全指標達成率					
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	5	魅力的な都市空間の創造		指標数	19	19	20	20	20
目指す姿	市域で地域特性を生かした安全で快適な市街地が形成され、景観に配慮されている			達成数	14	12	13	0	0
				達成率	73.7%	63.2%	65.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2
				達成数	1	0	0	0	0
				達成率	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

成果指標1	「海岸・高原・住宅地及び市街地の街並みなどの良好な景観の形成」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R2	目標値	60.0	62.0	63.0	64.0	65.0			%	都市計画課
		58.3%	実績値	58.9	54.2	59.5						
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成						

目標値の考え方 「海岸・高原・住宅地及び市街地の街並みなどの良好な景観の形成」に満足している市民の割合は、平成30年度 実績57.1%、令和元年度実績 55.5%、令和2年度実績 58.3%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込み、65%以上とした。

成果指標2	土地の使い方について「全体として調和が取れており、良い状態である」と回答した市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R2	目標値	34.0	36.0	38.0	40.0	42.0			%	都市計画課
		32.6%	実績値	41.5	31.1	24.8						
			評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成						

目標値の考え方 「全体として調和が取れており、良い状態である」と回答した市民の割合は、令和元年度実績 32.8%、令和2年度実績 32.6%を参照し、各年度2%程度上昇を見込み、42%以上とした。

R3年度	1（実績評価）	・景観施策により積極的に取り組み景観に配慮したまちづくりを進めるため、基本方針の見直しや重点地区の候補地や眺望点の選定等、伊東市景観形成基本計画及び伊東市景観計画の改正を行った。 （次年度修正点）・重要景観形成地区を定め、より良好な景観の形成に努めていく。						
	2（実績評価）	・人々の生活や経済活動等により形成される事業と伊東の自然、歴史、文化と調和が取れるよう、主に土地利用事業等の適正化に関する指導要綱に基づき指導を行った。 （次年度修正点）・状況に応じ指導要綱等の基準の見直しを行い、調和が図れるよう適正な指導を行っていく。						

R4年度	1（実績評価）	・景観施策により積極的に取り組み景観に配慮したまちづくりを進めるため、基本方針の見直しや重点地区の候補地や眺望点の選定等を定めた伊東市景観形成基本計画及び伊東市景観計画に基づき、重要景観形成地区の指定に向けた取り組みを行った。 （次年度修正点）・重要景観形成地区を指定し、より良好な景観の形成に努めていく。						
	2（実績評価）	・人々の生活や経済活動等により形成される事業と伊東の自然、歴史、文化と調和がとれるよう、主に土地利用事業等の適正化に関する指導要綱に基づき指導を行った。 （次年度修正点）・状況に応じ指導要綱等の基準の見直しを行い、調和が図れるよう適正な指導を行っていく。						

R5年度	1（実績評価）	・景観施策により積極的に取り組み景観に配慮したまちづくりを進めるため、基本方針の見直しや重点地区の候補地や眺望点の選定等を定めた伊東市景観形成基本計画及び伊東市景観計画に基づき、東海館（松川）周辺地区を重要景観形成地区として指定すべく原案を策定した。 （次年度修正点）・東海館（松川）周辺地区を重要景観形成地区への指定に際し、パブリックコメント等で市民のご意見を聴取し、最終案の参考とするとともに、伊東市景観審議会に諮っていく。						
	2（実績評価）	・人々の生活や経済活動等により形成される事業と伊東の自然、歴史、文化と調和がとれるよう、主に土地利用事業等の適正化に関する指導要綱に基づき指導を行った。 （次年度修正点）・状況に応じ指導要綱等の基準の見直しを行い、調和が図れるよう適正な指導を行っていく。						

中間評価	1（達成状況）	D							
	（実績評価）	・KPIとしている市民満足度は微増傾向となっていることから、景観施策全体の方向性は一定の評価を得ていると考え、伊東市景観形成基本計画及び伊東市景観計画に基づいた取組を継続していく。							
	（今後の対応）	・重要景観形成地区については、東海館（松川）周辺地区に加えて大室山周辺地区の指定についても検討に入り、本市の景観保全を進めていく。							
	2（達成状況）	C							

評価	（実績評価）	・令和4年4月1日に伊東市開発行為等事務処理要領及び伊東市土地利用事業等の適正化に関する指導要綱を改定した他、違反の疑いのある事案の発見のため、通報等に基づくパトロールも随時実施している。						
	（今後の対応）	・今後も引き続き土地利用事業等の適正化の推進のため、適正な指導等を行っていく。						

担当課	都市計画課		施策3－6の全指標達成率					
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	6	公共交通体系の充実	指標数	15	15	15	15	15
目指す姿	市民、観光客等にとって持続可能な地域公共交通が確保・維持されている		達成数	8	7	8	0	0
			達成率	53.3%	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	2	2	2	2	2		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標1	「バス・鉄道などの公共交通対策の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	37.0	39.0	41.0	43.0			45.0
		35.3%	実績値	34.4	33.6	30.1				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	公共交通の満足度については、市民満足度調査を管理指標としており、令和元年度は31.7%、令和2年度はコロナ禍において、バス、電車の減便があるなか35.3%と上昇傾向である。満足度調査結果を基に10%の上昇を見込み45%とした。									

成果指標2	鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーの年間利用者数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	8,651	8,651	8,651	8,651			8,651
		8,651千人	実績値	4,658	5,900	6,508				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーの年間利用者数は、人口は減少傾向にあり年間利用者数の減少が懸念されるところ、利用促進等の取組による年間利用者数の維持を見込み、現状維持とした。									

R3年度	1（実績評価）	・伊東市地域公共交通計画で市内路線バスの維持、見直しの検討や地域公共交通の確保、充実、利用促進に向けた取組を行った。 （次年度修正点）・地域公共交通の確保、維持、充実に向け利用実態を把握し、利用促進に向けた取組等を行う。								
	2（実績評価）	・利用促進に向けた取組として、交通系ICカード導入補助、タクシー車両の購入補助等を行った。 （次年度修正点）・継続した運行の確保、維持したうえで、利便性の向上を図っていく。								

R4年度	1（実績評価）	・伊東市地域公共交通計画で市内路線バスの維持、見直しの検討や地域公共交通の確保、充実、利用促進に向けた取組を行った。 （次年度修正点）・地域公共交通の確保、維持、充実に向け利用実態を把握し、公共交通体系の見直しや利用促進に向けた取組等を事業者と共に進める。								
	2（実績評価）	・利用促進に向けた取り組みとして、現状の把握、運行本数やルートの見直し等を事業者と行った。 （次年度修正点）・継続した運行の確保、維持に努めるとともに、公共交通体系の見直し等を行い利便性向上を図っていく。								

R5年度	1（実績評価）	・交通空白地の分譲地等の自主的な交通確保のためのマニュアル整備を行った。 （次年度修正点）・本市の交通実態やニーズをアンケートや事業者からの利用データで分析し、必要な公共交通サービスレベルを検討し、伊東市地域公共交通計画の改定を進める。								
	2（実績評価）	・利用促進に向けた取組として、現状の把握、運行本数やルートの見直し等を事業者と継続して行ったほか、市内の公共交通マップを配布した。 （次年度修正点）・公共交通の一層の利用促進のため、スマホ等と連動した利便性の高い市内公共交通マップの作成を行うべく、調査研究を行うほか、デマンド交通の沿線に利用促進の効果的なPRを行っていく。								

中間評価	1（達成状況）	D								
	（実績評価）	・コロナ禍が明け、市民の移動が活発化してきたことに伴い、コロナ禍における公共交通サービスの規模縮小が公共交通施策全般に係る満足度の低下傾向に現れているものと考えられる。								
	（今後の対応）	・令和6年度に改定する伊東市地域公共交通計画において、持続可能な公共交通サービスを維持・改善することとともに、民間の交通施策の支援を含めた多面的な交通施策を検討していく。								
	2（達成状況）	D								
評価	（実績評価）	・公共交通の利用者が年々増加しており、そのニーズの上昇傾向は続くものと見込まれることから、路線バスの運行に係る補助は同様な規模で継続していくことが好ましいと考えられる。								
	（今後の対応）	・事業者と連携した利用促進とニーズの把握・分析に継続して取り組んでいく。								

担当課		建設課	施策3－7の全指標達成率							
政策目標	3	良好な環境が広がり快適に暮らせるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	7	道路環境の整備	指標数	16	16	16	16	16		
目指す姿	市域において円滑・安全・安心・快適な道路環境が維持できている		達成数	9	8	6	0	0		
			達成率	56.3%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）			指標数	2	2	2	2	2		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	道路瑕疵による事故発生件数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	0	0	0	0	0	件	建設課
		0件	実績値	2	5	3				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	良好な道路環境を保つために、道路パトロールの実施、計画的な修繕及び補修に関する市民要望への迅速かつ的確な対応して被害を無くす。									

成果指標 2	幹線市道の整備率	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	96.7	97.2	97.7	98.1	98.5	%	建設課
		95.7%	実績値	95.8	95.9	96.2				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	幹線市道の狭隘箇所やすれ違い困難箇所などを解消し、良好な道路環境を創出する。									

R3年度	1（実績評価）	・市民からの要望に対する迅速な対応及び幹線道路等の整備を推進したが、目標値の達成には至らなかった。									
	（次年度修正点）・交通量の少ない市道の路面や沿道樹木の状態把握等に細心の注意を払い、良好な道路環境を目指す。										
	2（実績評価）	・用地取得困難箇所以外は、整備を行うことができたが、目標値の達成には至らなかった。									
	（次年度修正点）・粘り強く用地交渉を行い、工事着手を目指す。										
R4年度	1（実績評価）	・市民からの要望に対し迅速な対応に努めたが、沿線樹木の倒木による事故が多数あり、目標値の達成には至らなかった。									
	（次年度修正点）・交通量の少ない市道の路面や沿道樹木の状態把握等に細心の注意を払い、良好な道路環境を目指す。										
	2（実績評価）	・用地取得困難箇所以外は、整備を行うことができたが、目標値の達成に至らなかった。									
	（次年度修正点）・粘り強く用地交渉を行い、工事着手を目指す。										
R5年度	1（実績評価）	・市民からの要望に対し迅速な対応に努めたが、沿線樹木の倒木による事故が多数あり、目標値の達成には至らなかった。									
	（次年度修正点）・交通量の少ない市道の路面や沿道樹木の状態把握等に細心の注意を払い、良好な道路環境を目指す。										
	2（実績評価）	・用地取得困難箇所以外は、整備を行うことができたが、目標値の達成に至らなかった。									
	（次年度修正点）・粘り強く用地交渉を行い、工事着手を目指す。										

中間評価	1（達成状況）	D									
	（実績評価）	・市民からの要望に対する迅速な対応及び幹線道路等の整備を推進したが、目標値の達成には至らなかった。									
	（今後の対応）	・交通量の少ない市道の路面や沿道樹木の状態把握等に細心の注意を払い、良好な道路環境を目指す。									
	2（達成状況）	B-									
	（実績評価）	・用地取得困難箇所以外は、整備を行うことができたが、目標値の達成に至らなかった。									
	（今後の対応）	・引き続き、粘り強く用地交渉を行い、工事着手を目指す。									

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち

- | | |
|--------|-------------------|
| 施策 4－1 | 教育環境の整備 |
| 施策 4－2 | 未来を創る教育の充実（小・中学校） |
| 施策 4－3 | 生涯学習活動の推進 |
| 施策 4－4 | 青少年の健全な育成 |
| 施策 4－5 | 市民スポーツ活動の推進 |
| 施策 4－6 | 歴史・芸術文化の振興 |
| 施策 4－7 | 郷土愛の醸成 |

担当課		教育総務課		施策4－1－1の全指標達成率						
政策目標		4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野		1	教育環境の整備	指標数	18	18	19	19	19	
目指す姿		児童・生徒・教職員・保護者にとって児童・生徒が学習しやすい環境が整っている	達成数	14	11	12	0	0		
			達成率	77.8%	61.1%	63.2%	0.0%	0.0%		
1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3	3	
				達成数	3	3	3	0	0	
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
成果指標 1	児童生徒1人当たりの教育用コンピュータ数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
	0.16台	R1	目標値	1	1	1	1	1	台	教育総務課
		実績値	1.03	1.07	1.11					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
		目標値の考え方	国が推進するGIGAスクール構想（※）における児童生徒1人1台端末を目標値とした。 ※GIGAスクール構想・・・1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。							
成果指標 2	長寿化計画に基づく具体的な改修計画の策定・改修の実施	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
	未策定	R2	目標値	0/14	1/14	1/12	1/12	改修計画に基づく改修の実施 2/12	校	教育総務課
		実績値	0/14	1/14	1/12					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
		目標値の考え方	統廃合が決定している学校（東・西・旭小）及び児童生徒数を考慮し、今後存続することが確実であると考えられる学校（南小・南中・大池小・門野中）について優先的に計画を策定し、改修を実施することとする。（目標値は改修実施済みの学校数）							
成果指標 3	異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生件数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
	0件	R1	目標値	0	0	0	0	0	件	教育総務課
		実績値	0	0	0					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
		目標値の考え方	食物アレルギーを持つ児童生徒が全国的に増加傾向の中で、大量調理の給食センターや施設の老朽化が著しい学校の給食室において、異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生を防ぎ、引き続き安全安心な給食を提供する。							
R3年度	1（実績評価） ・令和3年度の児童生徒数3,761人に対し、端末3,890台（令和3年度末）を整備した。 （次年度修正点） ・購入から1年間のメーカー保証も終了することから、今後故障する端末の増加が予想されるため、引き続き目標値が達成できるよう適切に修繕等を行っていく。									
	2（実績評価） ・統合に伴う東小学校校舎の改修修繕を実施した。 （次年度修正点） ・引き続き東小学校校舎の改修修繕を実施する。今後計画する学校の改修修繕箇所の選定を行う。									
	3（実績評価） ・アレルギーガイドブック改訂、衛生研修会の実施など、市内全校で共有することで事故を未然に防止する体制が強化された。 （次年度修正点） ・アレルギー児童生徒数増加、原因食材も多岐に渡るため、事故防止の研修会を実施することで事故を未然に防止する。									
R4年度	1（実績評価） ・令和4年度の児童生徒数3,594人に対し、端末3,874台（令和4年度末）を整備した。 （次年度修正点） ・購入から1年間のメーカー保証も終了しており、今後故障する端末の増加が加速すると予想されるため、引き続き目標値が達成できるよう適切に修繕等を行っていく。									
	2（実績評価） ・統合に伴う東小学校校舎の改修修繕を実施した。 （次年度修正点） ・今後計画する学校の改修修繕箇所の選定を行う。									
	3（実績評価） ・アレルギーガイドブック改訂、衛生研修会の実施など、市内全校で共有することで事故を未然に防止する体制が強化された。 （次年度修正点） ・アレルギー児童生徒数増加、原因食材も多岐に渡るため、事故防止の研修会を実施することで事故を未然に防止する。									
R5年度	1（実績評価） ・令和5年度の児童生徒数3,419人に対し、端末3,784台（令和5年度末）を整備した。 （次年度修正点） ・今後の端末故障が増加傾向にあることから、引き続き目標値を達成できるよう適切に修繕等を行っていく。									
	2（実績評価） ・統合に伴う東小学校校舎の改修修繕を実施した。南中学校のトイレ設備、照明設備の更新を実施した。 （次年度修正点） ・今後計画する学校の改修修繕箇所の選定を行う。									
	3（実績評価） ・主要7品目から8品目に変更されたことによるアレルギーガイドブックの改訂、アレルギー対策委員会の開催、衛生研修会の実施など、市内全校で情報共有することで事故を未然に防止する体制を整えることができた。 （次年度修正点） ・アレルギー児童生徒数の原因食材が多岐に渡るため、ヒヤリハットを共有することで重大事案の発生を未然に防止し、原因となった事例の再発防止に努め、再発防止策を講じる。									
中間評価	1（達成状況）	A	・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、令和3年度に端末3,890台を整備し、端末故障の際には予備機にて対応しており、令和5年度末の児童生徒数3,419人に対し、稼働端末3,784台となっている。 ・今後の端末故障が増加傾向にあることから、引き続き目標値を達成できるよう必要に応じて、適切に修繕等を行っていく。							
	（実績評価）									
	（今後の対応）									
2（達成状況）	B	・統合に伴う東小学校校舎の全面的な改修修繕を実施した。南小学校、南中学校、門野中学校の設備の更新を実施した。 ・新たな全面的な改修計画を策定するとともに、老朽化した設備についても適宜更新を実施していく。								
（実績評価）										
（今後の対応）										
3（達成状況）	A	・毎年「アレルギー対策委員会」を実施し、学校長代表、教頭代表、養護教諭代表、栄養士代表、教員代表など、学校現場で対応する職員の意見を取り入れてより良い対策を講じるようにしていることで、事故発生を防止できている。 ・ヒヤリハット事例を共有し、発生原因に対する対策を講じることで、事故発生を防止するための仕組みができています。今後もアレルギー対策委員会を中心に情報を共有することで、事故を未然に防止する体制を整える。								
（実績評価）										
（今後の対応）										

担当課		教育指導課		施策4－2の全指標達成率						
政策目標		4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		2	未来を創る教育の充実（小・中学校）		指標数	20	22	22	23	23
目指す姿		児童・生徒が夢や希望を抱くことができる 子どもたちが夢や希望を育むことのできる魅力ある学校			達成数	8	9	9	0	0
					達成率	40.0%	40.9%	40.9%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）					指標数	2	2	2	2	2
					達成数	1	1	1	0	0
					達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
成果指標 1	学校が楽しいと思う子どもの割合【小学校】（学校生活アンケート）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2	目標値	90.2	91.5	92.7	94.0	95.0		
		実績値	88.1	87.2	88.8					
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方	児童を対象とした学校評価（学校生活アンケート）の「学校がたのしいですか」との質問に対し、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した児童の割合。 小学校では、令和元年度実績88.6%、令和2年度実績89.1%と各年度0.5ポイントの上昇幅にとどまっているが、各年度1ポイント程度の上昇を目標とした。									
成果指標 2	学校が楽しいと思う子どもの割合【中学校】（学校生活アンケート）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2	目標値	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0		
		実績値	88.3	88.4	89.1					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
目標値の考え方	生徒を対象とした学校評価（学校生活アンケート）の「学校がたのしいですか」との質問に対し、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した生徒の割合。 中学校では、令和元年度実績83.6%、令和2年度実績85.7%を参考とし、各年度2%上昇を見込むところだが、令和2年度の上昇率が大きかったことや生徒の主観によるところが大きいことを考慮し、上昇幅を抑え各年度1ポイント程度とした。									
R3年度	1（実績評価）	・令和2年度と比較し、1ポイント下回る結果となった。コロナ禍の中で制約のある学校生活が続いていることにより、ストレスや不安を感じている児童が一定数いるためと考えられる。 （次年度修正点）・令和3年度の評価が88.1%であったことから、令和4年度は目標値を上回ることができるよう努めたい。								
	2（実績評価）	・令和2年度と比較し、2ポイント以上回る結果となった。コロナ禍の学校生活が続いているものの、タブレット端末やICTを活用した授業の実施、行事等の工夫により、学びの楽しさを実感している生徒が増加したと考えられる。 （次年度修正点）・令和3年度の実績値を参考にして、令和4年度も目標値を上回ることができるよう努めたい。								
R4年度	1（実績評価）	・令和3年度に比べ0.9ポイント下回る結果となった。コロナ禍で制約のある学校生活や学校の統廃合など環境の変化等によるストレスや不安を感じている児童が一定数いるためと考えられる。 （次年度修正点）・令和3年度が88.1%であったことから、令和5年度はそれを上回ることができるよう努めたい。								
	2（実績評価）	・令和3年度よりも0.1ポイント上回る結果となった。タブレット端末やICTを活用した授業を実施したことや、行事の工夫等により引き続き学びの楽しさを実感した生徒がいたためと考えられる。 （次年度修正点）・令和4年度の実績値を参考にして、令和5年度の目標値を上回ることができるよう努めたい。								
R5年度	1（実績評価）	・令和4年度に比べ1.6ポイント上回る結果となった。コロナ禍前の日常生活に戻ったことや学校行事等の制約もなくなり、充実したことが数値の向上につながったと考えられる。 （次年度修正点）・令和2年度が89.1%であったことから、令和6年度はそれを上回ることができるよう努めたい。								
	2（実績評価）	・令和4年度よりも0.7ポイント上回る結果となった。タブレット端末やICTを活用した授業が充実してきたことや、行事の充実等により引き続き学びの楽しさを実感した生徒がいたためと考えられる。 （次年度修正点）・令和5年度の実績値を参考にして、令和6年度の目標値を上回ることができるよう努めたい。								
中間評価	1（達成状況）	B-								
	（実績評価）	・環境の変化に対応できたことで、令和5年度は令和3年度を0.7ポイント上回る結果となった。								
	（今後の対応）	・ICTを活用した授業の充実や行事の工夫等、学びの楽しさを実感できるような取組を推進していく。								
	2（達成状況）	B+								
	（実績評価）	・ICTの活用や行事等の工夫により、令和5年度は目標値を1.1ポイント上回る結果となった。								
	（今後の対応）	・引き続きICTの活用や行事の充実等、生徒が主体的に取り組み、学びの楽しさを実感できるような取組を推進していく。								

担当課		生涯学習課		施策4－3の全指標達成率						
政策目標		4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		3	生涯学習活動の推進		指標数	11	11	11	11	11
目指す姿		市民が生涯にわたる学びや活動に参加し、豊かさを享受できる			達成数	2	2	2	0	0
					達成率	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）					指標数	2	2	2	2	2
					達成数	0	0	0	0	0
					達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

成果指標 1	「生涯学習活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2	目標値	75.3	75.9	76.6	77.2	78.0		
		74.7%	実績値	72.8	69.4	61.4				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の見解や評価を把握することが可能となるため。									

成果指標 2	市民一人当たりの図書貸出冊数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	2.88	2.92	2.95	3.28	3.76		
		281冊	実績値	2.70	2.57	2.50				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	総貸出数を新図書館の開館に向けた令和5年度までは毎年度1,000冊、開館年度となる令和6年度は20,000冊、令和7年度は30,000冊増やすことを目標とする。なお、人口数は今後の人口減少を想定し毎年度500人減で算出している。（基準値：総貸出数＝令和元年度192,472+1,000冊≒193,500冊①、人口＝令和元年度人口平均68,505人－500人≒68,000人②から、①÷②≒2.85冊）									

R3年度	1（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、各種講座等について中止せざるを得ない状況が発生したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・withコロナを踏まえ、感染対策を的確に実施し、事業をできる限り展開することで、市民の皆様の見解度向上が図られるよう努める。									
	2（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、来館者数が減少したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を的確に実施しながら、より多くの市民が利用できるよう蔵書構成に努める。									

R4年度	1（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各種講座等への参加が減少したことが影響したものと考えている。 （次年度修正点）・新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類へと移行するのを踏まえ、市民の皆様の見解度向上につながるような各種講座の実施に努める。									
	2（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、来館者数が減少したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・より多くの市民が手に取りたくるように企画展示など配架に工夫をし、多くの市民が利用しやすくなるような図書館運営に努める。									

R5年度	1（実績評価）	・コロナ禍で休止及び解散した団体が多く、コロナ前に比べ、活動団体が減っていることが原因と考えている。 （次年度修正点）・市民が団体を検索しやすく、また参加しやすい情報提供を心掛け、市民満足度の向上が図れるよう努める。									
	2（実績評価）	・来館者数は増加しているが、貸出冊数の増加にまで結びついていないことが考えている。 （次年度修正点）・今後も、企画展示など配架に工夫をし、より多くの市民が手に取り、読みたいと感じるような図書館運営に努める。									

中間評価	1（達成状況）	D										
	（実績評価）	・年々市民満足度は減少傾向であり、講座等への参加率や活動団体の減少が原因と考えている。										
	（今後の対応）	・市民が団体を検索しやすく、また参加しやすい情報提供を心掛け、市民満足度の向上が図れるよう努める。										
	2（達成状況）	D										
	（実績評価）	・年々貸出冊数は減少傾向であり、読書離れや若年層の利用者数の減少が原因と考えている。										
	（今後の対応）	・今後も、企画展示など配架に工夫をし、より多くの市民が手に取り、読みたいと感じるような図書館運営に努める。										

担当課	生涯学習課		施策4－4の全指標達成率						
政策目標	4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野	4	青少年の健全な育成	指標数	10	10	10	10	10	
目指す姿	次代を担う青少年が、豊かな人間性・社会性を身に 着け、地域とともに健やかに育つことができる		達成数	5	6	6	0	0	
			達成率	50.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%	

1 成果指標（KPI）			指標数	1	1	1	1	1		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果 指標 1	小・中・高生一人当たりの地域学校協 働活動への参加回数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	1.43	1.49	1.55	1.61	1.68	回	生涯学 習課
		1.35回	実績値	0.44	0.95	0.74				
			評 価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値 の 考え方	令和7年度にかけて市内小・中・高生の人数が1,000人以上減少する見込みの中で、地域学校協働活動への参加を促す事により、 青少年の健全な育成に資する。なお、地域学校協働活動への参加者数は、①あいさつ運動（一斉活動）、②放課後子ども教室、③ ふるさと教室、④夢チャレンジくらぶへの延参加者数の合計とする。									
R 3 年 度	（実 績 評 価 ） ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ事業を中止したことから、参加者数も大幅に減少したため、目標を下回る結 果となった。 （次年度修正点） ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、感染対策を講じた上で可能な限り実施するとともに、多くの子ども たちに参加いただくよう努める。									
R 4 年 度	（実 績 評 価 ） ・新型コロナウイルス感染症を機に、特にふるさと教室の講座数を従来の2分の1としたことから、ふるさと教室及び夢チャ レンジくらぶ延べ参加者数が大幅に減少したため目標を下回る結果となった。 （次年度修正点） ・アフターコロナにおいても、講座へ参加しやすくなるよう考慮し、ふるさと教室については講座数を2分の1で維持する予 定であるため延べ参加者数は目標よりも減少することとなる。従って、①あいさつ運動（一斉活動）②放課後子ども教室の実 施状況にもよるが、概ね実績値は1回前後で推移していく見込みである。									
R 5 年 度	（実 績 評 価 ） ・令和4年度の次年度修正点のとおり、ふるさと教室等の講座数を2分の1に維持していることから、参加者数は横ばいで あったほか、学校統合によりあいさつ運動への参加者（報告数）も減少したことから目標値を下回った。 （次年度修正点） ・ふるさと教室の講座数については現状を変更する予定はないが、参加定員の増加を視野に入れつつ、より多くの子供たちに 参加してもらえるよう努める。									
中 間 評 価	（達 成 状 況 ）	D								
	（実 績 評 価 ）	・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各事業で見込んでいた参加者を確保できなかった。								
	（今 後 の 対 応 ）	・事業規模や回数を急激に増やすことは困難なため、各事業とも定員数を増加させるなど対策を図る。								

担当課	生涯学習課		施策4－5の全指標達成率					
政策目標	4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	5	市民スポーツ活動の推進	指標数	7	8	8	8	8
目指す姿	市民が気軽に快適にスポーツに取り組むことができ、生涯にわたって健康を維持することができる		達成数	3	2	3	0	0
			達成率	42.9%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）			指標数	1	1	1	1	1		
			達成数	0	0	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果指標 1	「市民スポーツ活動の支援」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	74.5	76.0	77.5	78.5	80.0	%	生涯学習課
		73.3%	実績値	72.7	68.7	68.2				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の見解や評価を把握することが可能となるため。									
R3年度	(実績評価)・新型コロナウイルス感染症予防のため、社会体育施設の臨時閉館やイベントの中止などが重なった影響によるものであると考える。 (次年度修正点)・withコロナを踏まえ、感染対策を的確に実施し、事業をできる限り実施することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。									
R4年度	(実績評価)・新型コロナウイルス感染症予防のため、社会体育施設の利用制限や各種教室・大会の中止など、コロナ禍において活動に制限が課された点やスポーツをする機会が減った影響によるものであると考える。 (次年度修正点)・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へと移行するのを踏まえ、社会体育施設における利用制限の見直しや事業実施ができるよう進めていく。									
R5年度	(実績評価)・コロナ禍で実施していた社会体育施設の利用制限に関しては撤廃したものの、廃校となった旧伊東高等学校、同城ヶ崎分校の利用が一部できなくなった影響もあると考えられる。 (次年度修正点)・高校跡地の利活用に関しても、短期的な利用ができるように調整することと同時に、長期的なビジョンに関しても検討し、他分野においても満足度の向上につなげられるよう努める。									
中間評価	(達成状況)	D								
	(実績評価)	・コロナ禍による利用制限等を課したこと、県の施策ではあるが高等学校の3校統合により高校用地の体育利用が一部できなかったこと等が要因として考えられる。								
	(今後の対応)	・市民の皆様が利用できる体育施設の質的向上を継続的に図り、満足度の向上に努める。								

担当課		生涯学習課		施策4－6の全指標達成率							
政策目標		4	心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野		6	歴史・芸術文化の振興	指標数	10	10	10	10	10		
目指す姿		市民が歴史、芸術文化に触れ、心を豊かにするとともに、後世に伝えることができる		達成数	2	2	2	0	0		
				達成率	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2									
				達成数	0	0	0	0	0									
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%									
成果指標 1	「芸術・文化に触れる機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R2	目標値	64.0	R4	65.5	R5	67.0	R6	68.5	R7	70.0	単位	担当課			
		62.7%		実績値	61.8		57.8		61.9					%	生涯学習課			
		評価													× 未達成	× 未達成	× 未達成	以上
		目標値の考え方													市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の見解や評価を把握することが可能となるため。			
成果指標 2	「史跡・郷土芸能の保存」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R2	目標値	76.8	R4	77.6	R5	78.4	R6	79.2	R7	80.0	単位	担当課			
		75.9%		実績値	76.6		70.7		75.0					%	生涯学習課			
		評価													× 未達成	× 未達成	× 未達成	以上
		目標値の考え方													市民満足度調査を参照することにより、市民の中から無作為に抽出された広範囲の皆様の見解や評価を把握することが可能となるため。			

R3年度	1（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、芸術祭、伊東市史に関する講座・講演会等の事業を中止・縮小せざるを得ない状況が発生したことも影響したものと考えている。 （次年度修正点）・withコロナを踏まえ、感染対策を的確に実施し、事業をできる限り実施することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。
	2（実績評価）	・目標値をやや下回ったが令和2年度の数値は上回っており、史跡江戸城石垣石丁場跡保存活用計画策定といった事業内容が評価されつつあると考えている。 （次年度修正点）・史跡に関する情報発信や、郷土芸能の保存団体に対する支援に努める。
R4年度	1（実績評価）	・3年ぶりに芸術祭を開催したものの、コロナ禍により一部制限をして開催したことや芸術・文化団体の解散等により参加者がコロナ禍前を下回ったことで目標値を達成できなかったと思われる。 （次年度修正点）・観光会館文化事業入場者数は前年度を上回るなど、芸術・文化に対する関心は高いと考える。振興公社及び文化協会と連携し、魅力ある事業を提供することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。
	2（実績評価）	・コロナ禍で郷土芸能の保存に対する関心が薄れていった影響があると考えている。 （次年度修正点）・史跡に関する情報発信や、郷土芸能の保存団体に対する支援に努める。
R5年度	1（実績評価）	・実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。 （次年度修正点）・振興公社及び文化協会と連携し、魅力ある事業を提供することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。
	2（実績評価）	・実績値が前年度を上回ったものの、目標値には至らなかった。 （次年度修正点）・史跡に関する情報発信や、郷土芸能の保存団体に対する支援に努める。
中間評価	1（達成状況）	D
	（実績評価）	・3か年の実績は60％前後の数値を得られているが、目標値には達していない。
	（今後の対応）	・振興公社及び文化協会と連携し、魅力ある事業を提供することで、市民の皆様の満足度向上が図られるよう努める。
	2（達成状況）	B-
	（実績評価）	・3か年の実績は70％以上の数値を得られているが、目標値には達していない。
	（今後の対応）	・史跡に関する情報発信や、郷土芸能の保存団体に対する支援に努める。

担当課	企画課	施策4－7の全指標達成率					
政策目標	4 心豊かな人を育み生涯にわたって学習できるまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	7 郷土愛の醸成	指標数	5	5	4	4	4
目指す姿	本市の将来を担う高校生が生まれ育ったまちに誇りを持ち、「住み続けたい」「離れても将来戻ってきたい」と思える	達成数	1	1	1	0	0
		達成率	20.0%	20.0%	25.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）	指標数	2	2	2	2	2				
		達成数	1	1	1	0	0			
		達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
成果指標 1	伊東市に将来戻ってきたいと思う高校生の割合（高校生アンケート）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	59.5	61.0	62.5	64.0	65.0	%	企画課
		58.0%	実績値	72.7	57.9	59.4				
		評価	○ 達成	× 未達成	× 未達成					
		以上								
目標値の考え方	伊東市に将来戻ってきたいと思う高校生の割合は、令和元年度実績56.4%、令和2年度実績58.0%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で65.0%とした。									
成果指標 2	郷土に誇りと愛着を持っている高校生の割合（高校生アンケート）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	72.0	73.0	74.0	74.5	75.0	%	企画課
		71.6%	実績値	68.1	74.0	79.7				
		評価	× 未達成	○ 達成	○ 達成					
		以上								
目標値の考え方	郷土に誇りと愛着を持っている高校生の割合は、令和2年度からの調査項目であり、令和2年度実績71.6%から、各年度1%程度の上昇を見込んだが、4人中3人を目標に75.0%とした。									
R3年度	1（実績評価）・目標値を達成しており、今後も「戻ってきたい」と思えるまちづくりに努めていく。									
	（次年度修正点）・目標値は達成しているが、高校生アンケートの回答率が前年度に比べて下がってしまった。今後は回答率を高めていくよう、高校にも積極的に働きかけていくとともに、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。									
	2（実績評価）・目標値に未達成のため、高校との連携を深め、郷土（伊東）に誇りや愛着が持てるようなまちづくりに努めていく。									
R4年度	（次年度修正点）・高校生アンケートの回答率が前年度に比べて下がってしまった。今後は回答率を高めていくよう、高校にも積極的に働きかけていくとともに、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。									
	1（実績評価）・目標値に未達成のため、高校との連携を深め、将来戻ってきたいと思うまちづくりに努めていく。									
	（次年度修正点）・未来ビジョン会議等を通じて、高校生の生の声を聞く機会の創出に努めていく。									
R5年度	2（実績評価）・目標値を達成した。高校との連携を深め、今後も郷土（伊東）に誇りや愛着が持てるようなまちづくりに努めていく。									
	（次年度修正点）・高校生アンケートの回答率が前年度に比べて上昇した。今後も回答率を高めていくよう、高校にも積極的に働きかけていくとともに、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。									
	1（実績評価）・昨年度より増加したものの、目標値には届かなかったが目標達成に向け、将来戻ってきたいと思うまちづくりについて高校生の生の声を聞くことを目的とし、未来ビジョン会議の委員に新たに高校生を選出した。									
中間評価	（次年度修正点）・引き続き、未来ビジョン会議委員に高校生を選出し、将来戻ってきたいと思うまちづくりについて若者の視点による良いアイデアや意見を伺い、施策への反映に努めていく。									
	2（実績評価）・目標値を達成した。高校との連携を深め、今後も郷土（伊東）に誇りや愛着が持てるようなまちづくりに努めていく。									
	（次年度修正点）・高校生アンケートの回答率が前年度に比べて上昇した。今後も高い回答率を維持することができるよう、高校にも積極的に働きかけていくとともに、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。									
評価	1（達成状況）	B-								
	（実績評価）	・令和3年度、4年度の実績評価を踏まえ、令和5年度より未来ビジョン会議の委員に高校生を選出したが、令和3年度をピークに実績値が減少し、以降横ばいの推移となっている。引き続き、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく必要がある。								
	（今後の対応）	・未来ビジョン会議で高校生の生の声を伺う機会を創出し、良い提案・意見については、第十二次基本計画策定の際に反映することで、将来戻ってきたいと思うまちづくりに努めていく。								
評価	2（達成状況）	B+								
	（実績評価）	・令和3年度から5年度にかけて実績値が増加し、順調に推移しているため、今後も郷土（伊東）に誇りや愛着が持てるようなまちづくりに努めていく。								
	（今後の対応）	・未来ビジョン会議や高校生アンケート等を通じ、高校との連携を深め、郷土愛の醸成に努めていく。								

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

政策目標 5 「活力にあふれ交流でにぎわうまち」

- | | |
|--------|-----------------|
| 施策 5－1 | 地域資源の魅力向上 |
| 施策 5－2 | 新たな観光形態の構築・推進 |
| 施策 5－3 | 広域連携による誘客の拡充 |
| 施策 5－4 | 商工業の振興 |
| 施策 5－5 | 農林業の振興 |
| 施策 5－6 | 水産業の振興 |
| 施策 5－7 | 移住定住の促進・関係人口の拡大 |
| 施策 5－8 | 国際交流の推進・都市交流の促進 |

担当課		観光課		施策5-1-1の全指標達成率						
政策目標		5	活にあられ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		1	地域資源の魅力向上		指標数	18	18	18	18	18
目指す姿		観光客が地域資源に魅力を感じ来訪する			達成数	11	10	10	0	0
		市内観光関連事業者が地域資源の魅力を広く発信し、誘客につなげる			達成率	61.1%	55.6%	55.6%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）					指標数	2	2	2	2	2
					達成数	0	0	0	0	0
					達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
成果指標 1	年間来遊客数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	700	710	720	725			730
		662万人	実績値	461	551	603				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方		本市への年間来遊客数については、平成29年度665万人、平成30年度656万人、令和元年度662万人と660万人前後を推移している。本指標については社会情勢に大きく影響を受けるものであるが、第3次観光基本計画の目標値としている令和5年度の720万人達成を通過点とし、本計画の最終年度には730万人となるよう毎年5～10万人の増加を見込んでいく。								
成果指標 2	観光客の満足度（伊東温泉観光客実態調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	85.0	87.5	90.0	92.5			95.0
		62.3%	実績値	70.1	86.9	86.1				
		評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成					
目標値の考え方		本市が実施する伊東温泉観光客実態調査で本市全体の印象を満足度と捉え、「非常に良い」「良い」の回答の割合の合計を指標とする。基準値に設定した令和元年度の前年が80%だったことを考慮し、最終年度には95%となるよう毎年2.5%ずつ増加を見込んでいく。								
R3年度	1（実績評価）	・令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により年間来遊客数は減少した。繁忙期である夏季に緊急事態宣言が発出され8-9月は前年比を下回った。宿泊客は前年比9%減、日帰り客についても2%減となり厳しい状況が続いている。 （次年度修正点）・withコロナに則した誘客促進施策の展開及び安心・安全な滞在を提供する本市の効果的な情報発信を行う。								
	2（実績評価）	・令和元年度と比較すると満足度の向上が見られることから、引き続き観光振興施策の推進を図る。 （次年度修正点）・満足度調査による本市全体への印象として「普通」と回答した方が24.5%であった層を「良い」へ移行するための観光コンテンツの磨き上げや、おもてなしの改善を図りたい。また、調査手法を見直し、デジタルを活用し調査精度の向上を図ることも進めていく。								
R4年度	1（実績評価）	・全国的な行動制限の解除や全国旅行支援など観光需要の高まりが見受けられたことから、3年ぶりに対前年を上回った。しかしながら、コロナ禍前の令和元年と比較すると8割程度であることから、未だ完全な回復には至っていない。 （次年度修正点）・本市に存在する観光コンテンツの魅力向上を図り、国内外へ発信するとともに、本市の知名度と顧客満足度の向上を目指すための新たな施策を創出する。								
	2（実績評価）	・令和4年度から従来の対面での調査から、WEBを中心とした調査方法に切り替え、より幅広い世代から回答を得た中で対前年と比較して満足度が大きく向上したことから、引き続き観光振興施策の推進を図る。 （次年度修正点）・満足度調査による本市全体への印象として「普通」と回答した12.2%の層を「非常に良い」・「良い」へ移行するための観光コンテンツの磨き上げや、おもてなしの改善を図りたい。								
R5年度	1（実績評価）	・令和4年度に引き続き観光需要の高まりが見受けられ、前年度比10.9%と上回った。しかしながら、円安や物価高騰及び受け入れ施設側の従業員不足などの影響もあり、令和元年度比9.1%に留まった。 （次年度修正点）・多様化する来遊客のニーズを的確に把握し、来遊客の誘致を推進するとともに、増加傾向にあるインバウンドに係る施策についても一層の誘客を図りたい。								
	2（実績評価）	・令和3年度と比較すると大幅に増加したが、昨年度から0.8ポイントの微減であった。目標値達成に向けて引き続き観光振興施策の推進を図りたい。 （次年度修正点）・満足度調査による本市全体への印象として「普通」と回答した13.1%の層を「良い」へ移行するための観光コンテンツの磨き上げや、おもてなしの改善を図りたい。								
中間評価	1（達成状況）	D								
	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度の来遊客数は大幅に減少した。その後は回復傾向にあるが、令和5年度の年間来遊数はコロナ禍前（令和元年度）の9割程度に留まっており、コロナ禍等の影響により目標を達成できた年度はなかった。								
	（今後の対応）	・コロナ禍、円安・物価高騰、従業員不足等の影響もあるが、観光動向の分析、情報発信の強化、新しい観光スタイルへの対応や増加傾向にあるインバウンド対応を的確に実施し、一層の誘客を図っていく。								
	2（達成状況）	B-								
評価	（実績評価）	・令和3年度から令和4年度にかけて満足度は大きく上昇しているが令和5年度はほぼ横ばいとなっている。令和4年度は直近10年で最も高い数値であり、令和5年度も2番目に高い数値であることから、目標を達成するためには、これまで以上に観光振興施策を推進していく必要がある。								
	（今後の対応）	・令和4年度・令和5年度は直近10年間で1・2番目に高い満足度であったことから、引き続き観光振興施策を推進していくとともに、観光客のニーズを把握し、「普通」と回答した層を「良い」へ移行するための観光コンテンツの磨き上げや、おもてなしの改善を図っていく。								

担当課	観光課	施策5－2の全指標達成率					
政策目標	5 活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	2 新たな観光形態の構築・推進	指標数	9	9	9	9	9
目指す姿	観光客が本市を訪れる目的を多種多様な中から選択することができ、滞在型（2泊以上）の観光地として訪れる	達成数	12	12	12	7	7
		達成率	133.3%	133.3%	133.3%	77.8%	77.8%

1 成果指標（KPI）			指標数	2	2	2	2	2			
			達成数	2	2	2	0	0			
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%			
成果 指標 1	伊豆・伊東観光ガイドのPV数	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R1	目標値	2,400,000	2,800,000	3,200,000	4,400,000 (3,600,000)	4,500,000 (4,000,000)	77人	観光課	
		実績値	2,327,820	3,361,644	4,082,154	4,317,817					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成						以上
目標値の考え方		本市の観光情報を得る手段として、毎年実施している「伊東温泉観光客実態調査」では4割強がインターネットを活用していることが分かっている。令和元年度については約230万アクセス、新型コロナウイルスの影響で客足が遠のいていた令和2年度についても、アクセス状況は良好で9月以降は前年比プラスとなっていることを考慮し、令和3年度を240万アクセス、毎年40万アクセスをプラスし、令和7年度に400万アクセスを見込んでいく。									
成果 指標 2	伊東での滞在日数（2泊以上の割合） ※伊東温泉観光客実態調査より	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課		
		R1	目標値	15	17.5	20	29 (22.5)	30 (25)	%	観光課	
		実績値	19%	18	27.3	28.3					
		評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成						以上
目標値の考え方		本市への滞在日数が2泊以上の割合については、基準値とした令和元年は19%となっているが、平成30年、平成29年と15%に満たない数値となっている。滞在型観光へシフトしたい本市の方向性を図る指標として設定し、コンスタントに15%以上の数値となるよう令和3年度より2.5%ずつの増加を見込み、令和7年度には25%を目指していく。令和7年度の目標値を上回ることができたため、令和6年度以降の目標値を変更する。									
R3 年度	1（実績・評価）・コロナ禍にて人流制限がかかる中ではあったが、特集記事の更新等により閲覧者の旅行意欲にアプローチすることができ、PV数のみならずセッション数や閲覧時間の向上を図ることができた。 （次年度修正点）・季節にあわせた特集記事の更新を行い、SEO対策を図りつつ「伊豆・伊東」としての情報発信を強化したい。										
	2（実績・評価）・目標値は達成しているものの、令和元年の数値と比較すると下回っていることから一層の滞在時間の延長促進施策の継続実施が必要と考える。 （次年度修正点）・滞在型リフレッシュリゾートとしての南部地区の仕組み作りの強化及び誘客促進を図る。										
R4 年度	1（実績・評価）・観光イベント等の情報発信強化や特集記事の更新等により閲覧者の旅行意欲にアプローチすることができ、PV数のみならずセッション数や閲覧時間の向上を図る事ができた。 （次年度修正点）・「伊豆・伊東」の観光サイトとしての情報量の拡充を図るとともに、SEO対策を行い情報発信の更なる強化に努める。										
	2（実績・評価）・国外への渡航規制や県や国の宿泊支援施策により国内旅行における長期滞在の需要が高かったことから、目標を大きく達成することができた。 （次年度修正点）・旅行業界を取り巻く環境が通常時に戻った際には、旅行需要の低下が予想されるので、本市南部地域を中心に推進している滞在型観光誘致に向けた取組を強化することで継続的に滞在時間の延長を図る。										
R5 年度	1（実績・評価）・観光需要の回復にあわせ、イベント等の情報発信強化や特集記事の更新等により閲覧者の旅行意欲にアプローチすることができた。また、検索にかかり易いワードの使用など工夫をすることでPV数のみならずセッション数や閲覧時間の向上を図る事ができた。 （次年度修正点）・「伊豆・伊東」の観光サイトとしての情報量の拡充を図るとともに、需要に合致するタイミングでの特集記事の作成・更新を行い、SEO対策を図りつつ情報発信の更なる強化に努める。										
	2（実績・評価）・本市独自の宿泊支援施策や市内周遊促進施策及び南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての誘客促進施策の効果として連泊需要が高まったことから、目標を大きく達成することができた。 （次年度修正点）・インバウンド需要も意識した中で、引き続き南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての情報発信及び受け入れ環境の整備を図る。令和7年度の目標値を上回ることができたため、令和6年度以降の目標値を変更する。										
中 間 評 価	1（達成状況）	A									
	（実績・評価）	・観光需要の回復にあわせ、情報発信を強化するなど閲覧者の旅行意欲にアプローチしたこと、また、検索にかかり易いワードの使用など工夫をすることでPV数のみならずセッション数や閲覧時間が向上し、目標を達成することができた。									
	（今後の対応）	・引き続き、「伊豆・伊東」の観光サイトとしての情報量の拡充を図るとともに、需要に合致するタイミングでの特集記事の作成・更新を行い、SEO対策を図りつつ情報発信の更なる強化に努める。 ・サイトの更新頻度を上げるなどの対応により、令和5年度の実績値において、令和7年度目標値を大幅に上回っている。現在、一定のアクセス数があり、今後はアクセス数の伸びの鈍化も見込まれることから、令和5年度の実績値から毎年約10万アクセスをプラスし、令和7年度の目標値を4,500,000アクセスに上方修正する。									
	2（達成状況）	A									
	（実績・評価）	・宿泊支援施策の実施や市内周遊促進施策及び南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての誘客促進施策の効果として連泊需要が高まったことから、目標を達成することができた。									
	（今後の対応）	・インバウンド需要も意識した中で、引き続き南部地区の滞在型リフレッシュリゾートとしての情報発信及び受け入れ環境の整備を図る。									

担当課		観光課		施策5－3の全指標達成率					
政策目標		5	活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		3	広域連携による誘客の拡充	指標数	14	14	14	14	14
目指す姿		観光客が伊豆半島へ長く滞在し、連携市町を回遊する		達成数	4	6	7	0	0
				達成率	28.6%	42.9%	50.0%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2	
				達成数	0	0	0	0	0	
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
成果指標 1	伊豆半島7市6町の観光交流客数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	30,000,000	44,000,000	46,000,000	48,000,000	50,000,000		
		43,859,475人	実績値	26,168,435	36,930,551	39,003,247				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方										
広域連携による誘客については、市単位ではなく連携する市町による面での施策の結果を指標とし管理していく。令和元年度には約4,400万人となっているが、令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルスの影響により大きく数値が落ちることが予測されるため、それらを考慮して目標値を設定、令和4年度からは毎年200万人をプラスし、令和7年度には5,000万人を目指していく。										
成果指標 2	伊豆半島7市6町の外国人宿泊客数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	400,000	630,000	645,000	660,000	675,000		
		646,530人	実績値	24,540	98,943	301,313				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方										
広域連携のインバウンド施策の結果を管理する指標として伊豆半島7市6町の外国人宿泊客数を設定する。令和元年度は約65万人となっているが、令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルスの影響により大きく数値が落ちることが予測されるため、それらを考慮して目標値を設定、令和4年度からは毎年1万5,000人をプラスし、令和7年度には67万5,000人を目指していく。										

R3年度	1（実績評価）	・令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により観光交流客数は減少している。繁忙期である夏季に緊急事態宣言が発出されるなど苦境もあったが、令和2年度比では113%と回復基調を示している。 （次年度修正点） ・国県が実施する旅行支援施策の実施動向を注視するとともに、ジオパーク等の広域での取組等、当地区の特徴を活かした滞在、周遊施策を促進するため、美しい伊豆創造センターと協調した施策を進めていく。								
	2（実績評価）	・令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から厳格な入国制限（水際対策）が継続しており、令和3年度も観光による入国を原則緩和しない状況が続いたことから、外国人観光客の激減傾向は全国的なものであった。 （次年度修正点） ・現在、首都圏で回復の兆しがあるインバウンドであるが、コロナ禍前の水準に回復するのは、航空需要予測などから、2023年後半から2024年とも言われていることから、中期的な見通しを持った取組を推進したい。								
R4年度	1（実績評価）	・未だ基準値を下回る数値だが、全国的な行動制限の解除や全国旅行支援など観光需要の高まりが見受けられたことから、対前年比では141%と回復基調を示している。 （次年度修正点） ・当地区への誘客を図るため、各種協議会が積極的に事業を推進していることから、広域周遊・誘客宣伝等の事業効果を楽しめるよう積極的に働きかける。								
	2（実績評価）	・未だ基準値を下回る数値だが、渡航制限や水際対策の緩和により、対前年比では403%と回復基調を示している。 （次年度修正点） ・インバウンドについては、当初の推測より回復が顕著であることから、当地区の特徴を活かした滞在・周遊施策を促進するため、美しい伊豆創造センターと協調したインバウンド施策を進めていく。								
R5年度	1（実績評価）	・令和元年度の89%に留まっているが、コロナ禍が明け、本格的な観光需要の高まりが見受けられたことから、対前年比では106%と引き続き回復基調を示している。 （次年度修正点） ・コロナ禍の本格的な終了を受け、各市町や団体等が積極的に誘客対策事業を推進していることから、広域周遊・誘客宣伝等の事業効果が最大限に発揮できるよう本市としても積極的に誘客対策を実施していく。								
	2（実績評価）	・令和元年度の47%に留まっているが、渡航制限や水際対策の緩和により、対前年比では305%と、引き続き回復基調を示している。 （次年度修正点） ・令和5年の訪日外国人旅行者数は2,507万人と、前年の383万人から大幅に増加していることから、更なる誘客が図れるよう、美しい伊豆創造センターや他自治体等と連携を図りインバウンド施策を進めていく。								

中間評価	1（達成状況）	D									
	（実績評価）	・コロナ禍の影響により、誘客対策事業が計画どおり実施できず、令和3年度から令和5年度まで基準値を超えた年度はないが、コロナ禍明けからは、誘客対策事業も従来どおり実施できており、回復傾向にある。									
	（今後の対応）	・コロナ禍の本格的な終了を受け、国内外の観光需要も高まっていることから、引き続き各市町や団体等と連携して、積極的に誘客対策事業を実施していく。									
	2（達成状況）	D									
評価	（実績評価）	・コロナ禍の影響により、入国制限などがあったことから、令和3年度から令和5年度まで基準値を超えた年度はないが、コロナ禍明けからは誘客対策事業も従来どおり実施できており、外国人観光客は大幅に増えている。									
	（今後の対応）	・日本を訪れる訪日外国人旅行者数は大幅に増えており、今後、コロナ禍前の水準を上回ることも予想されていることから、各市町や団体等と連携し、伊豆半島地域ならではの魅力を発信することで、更なる誘客を図っていく。									

担当課	産業課	施策5－4の全指標達成率					
政策目標	5 活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	4 商工業の振興	指標数	19	19	19	19	19
目指す姿	商工業者において経営・雇用が安定し、地域経済の発展に貢献している	達成数	9	12	10	0	0
		達成率	47.4%	63.2%	52.6%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2			
		達成数	1	2	1	0	0			
		達成率	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
成果指標1	有効求人倍率	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2.3時点	目標値	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	倍	産業課
		実績値	1.12	1.43	1.46					
		1.22倍	評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成			以上	
目標値の考え方	有効求人倍率は重要な経済指標の一つであり、一般的に求人倍率が高い社会は労働力が多く求められており、経済が活発とされている。企業が積極的に求人を募集し、求職者1人に対して1件以上の求人があることを示す1.00倍以上を維持することを目標値とした。									
成果指標2	新規創業件数	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1	目標値	15	15	15	15	15	件	産業課
		実績値	13	18	14					
		12件	評価	× 未達成	○ 達成	× 未達成			以上	
目標値の考え方	伊東市起業支援及び空き店舗対策事業補助金の平成29年度実績16件、平成30年度実績16件、令和元年度12件を参照し、その平均を超える15件以上の起業を維持することを目標とした。									
R3年度	1（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、一時期は1.00（目標値）を割りこむ時もあったが、現在は1.00を超える数値で推移しているため概ね良好である。 （次年度修正点）・現在も、新型コロナウイルス感染症がゼロになっているわけではなく、今後の経済がどうなるか読めないため、本指標の推移に注視していきたい。									
	2（実績評価）・創業の相談は目標値をはるかに超える件数はあるが、全国的に各種製品の供給が滞り起業に至らなかったケースもあったため、結果目標値には若干届かなかった。 （次年度修正点）・目標未達成は外的要因もあったため、再度同じ値を目標とし引き続き様子を見ていきたい。									
R4年度	1（実績評価）・2年前は1.00を割り込むことが続いていたが、今年度は1.00を超え続け目標値も達成しているため、良好である。 （次年度修正点）・目標値を大きく超えているが、求人が福祉・医療、観光関連サービスなど業種によって偏っており、人手が足りていないという見方もあるため、数字にとらわれず雇用に結びつくよう検討していく必要がある。									
	2（実績評価）・目標値を達成しているため、新規創業に対する意識は高いと考える （次年度修正点）・目標値を達成していることは評価できるが、当初の売り上げ目標に到達していない事業者がかなり見られるため、アフターフォローに注力する必要がある。									
R5年度	1（実績評価）・目標値を達成できた。 （次年度修正点）・目標値は達成しているが、全国の有効求人倍率は1.28倍であり、大きな乖離がある。高い有効求人倍率の場合、人材不足が生じているため、今後は人材不足に対応するための施策を行っていく必要がある。									
	2（実績評価）・相談件数は多かったが、物価高騰の影響から、創業まで至らなかったケースがあり、目標値に若干届かなかった。 （次年度修正点）・目標未達成は外的要因もあったため、引き続き創業支援を行う中で、様子を見ていきたい。									
中間評価	1（達成状況）	A								
	（実績評価）	・一時期は1.00（目標値）を割りこむ時もあったが、現在は1.00を超える数値で推移し、企業への利子補給や商品券等の経済対策を実施したことにより、雇用が回復傾向にある。								
	（今後の対応）	・目標値は達成しているが、高い有効求人倍率が続いており、人材不足が生じていると考えられる。今後は人材不足に対応するための施策を行っていく必要がある。								
	2（達成状況）	C								
評価	（実績評価）	・新型コロナウイルスや物価高騰などの外的要因もあり、目標を達成できない年度があった。								
	（今後の対応）	・相談件数は増加傾向にあるが、当該補助金制度を認知していない方もいるので、今後は、移住相談会等でも制度周知を行い、広く広報を実施したい。								

担当課	産業課	施策5-5の全指標達成率					
政策目標	5 活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野	5 農林業の振興	指標数	15	15	15	15	15
目指す姿	農林業者において、意欲ある担い手が育成確保され、地域経済の発展に貢献している	達成数	9	6	11	0	0
		達成率	60.0%	40.0%	73.3%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2
		達成数	2	2	2	0	0
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
成果指標 1	担い手農業者数（年度末の総数）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
		R1	目標値	62	64	66	68
		58人	実績値	62	66	74	70
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	
目標値 の 考え方	担い手農業者数については、過去の傾向から年間2人増加するものとして算定						
成果指標 2	担い手への農地利用集積面積	基準値	R3	R4	R5	R6	R7
		R1	目標値	74.4	76.8	79.2	81.6
		69.1ha	実績値	80.4	93	100	
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成	
目標値 の 考え方	担い手への農地利用集積面積については、令和元年度における農業者1人あたりの利用面積（約1.2ha）を担い手農業者数に乘じて算定						
R3 年度	1（実績評価）・認定農業者の新規認定事案などにより、担い手数が増加し、目標値を達成することができた。						
	（次年度修正点）・認定農業者制度について、JAふじ伊豆あいら伊豆地区本部など関係機関と連携し引き続き周知を図ることにより、今後育成すべき担い手の増加に向けた取組を行う。						
	2（実績評価）・認定農業者の増加により集積面積が増加した。また、担い手への新規の利用権設定によって、目標値を達成することができた。						
R4 年度	（次年度修正点）・担い手の育成を図るとともに、農業委員や農地利用最適化推進委員などと協力し、引き続き、担い手への農地集積を推進する。						
	1（実績評価）・伊東市農業業経営基盤の強化に関する基本的な構想を見直したことにより、担い手と見なすことのできる経営体の数が増加した。						
	（次年度修正点）・認定農業者制度等について、JAふじ伊豆あいら伊豆地区本部など関係機関と連携し引き続き周知を図ることにより、今後育成すべき担い手の増加に向けた取組を行う。						
R5 年度	2（実績評価）・担い手とみなすことのできる経営体の増加により集積面積が増加した。						
	（次年度修正点）・担い手の育成を図るとともに、農業委員や農地利用最適化推進委員などと協力し、引き続き、担い手への農地集積を推進する。						
	1（実績評価）・担い手農業者のうち、基本構想水準到達者が増加し、目標値を達成することができた。						
中 間 評 価	（次年度修正点）・認定農業者制度等について、JAふじ伊豆あいら伊豆地区本部など関係機関と連携し引き続き周知を図ることにより、今後育成すべき担い手の増加に向けた取組を行う。						
	2（達成状況）						
	A						
評 価	（実績評価）・伊東市農業業経営基盤の強化に関する基本的な構想を見直したことにより、担い手と見なすことのできる経営体の数が増加し、目標値を達成することができた。						
	（今後の対応）・認定農業者制度等について、JAふじ伊豆あいら伊豆地区本部など関係機関と連携し引き続き周知を図ることにより、今後育成すべき担い手の増加に向けた取組を行う。						
	2（達成状況）						
	A						
中 間 評 価	（実績評価）・担い手農業者数の増加により、集積面積が増加し、目標値を達成することができた。						
	（今後の対応）・担い手の育成を図るとともに、農業委員や農地利用最適化推進委員などと協力し、引き続き、担い手への農地集積を推進する。						
	2（達成状況）						
	A						

担当課		産業課	施策5－6の全指標達成率							
政策目標		5	活力にあふれ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7
施策分野		6	水産業の振興		指標数	11	11	11	11	11
目指す姿		水産業者において、水産物の安定的な供給、活用により漁業経営の安定・向上化が図られ、地域経済の発展に貢献している		達成数	2	7	5	0	0	
				達成率	18.2%	63.6%	45.5%	0.0%	0.0%	

1 成果指標（KPI）				指標数	1	1	1	1	1	
				達成数	0	1	0	0	0	
				達成率	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
成果 指標 1	水揚げ数量	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R1	目標値	3,600	3,600	3,600	3,600			3,600
		3,636 t	実績値	2,833	3,808	3,174				
			評価	× 未達成	○ 達成	× 未達成				
目標値 の 考え方	いとう漁協が算出した伊東魚市場水揚げ高統計を参照し、過去の傾向から現状維持を目標値とする。									

R3 年度	（実績評価）・天候不順による操業日数の減少、海況の変化、黒潮大蛇行などの自然的な要因が、水揚げに大きな影響を及ぼしたことから、目標値を大きく下回った。 （次年度修正点）・いとう漁業協同組合が実施する種苗放流（ヒラメ、アワビ）や魚礁設置（アオリイカ）事業及び伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗（マダイ）放流事業に対して支援を行い水産資源増大を図っていく。	
R4 年度	（実績評価）・地球温暖化、黒潮大蛇行等、自然的な要因によって水揚げに大きな影響が続いていたが、年頭よりイワシ、サバの豊漁に恵まれたことから、目標値を上回った。 （次年度修正点）・いとう漁業協同組合が実施する種苗放流（ヒラメ、アワビ）や魚礁設置（アオリイカ）事業及び伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗（マダイ）放流事業に対して、引き続き支援を行い水産資源増大を図っていく。	
R5 年度	（実績評価）・天候不順による操業日数の減少、海況の変化、黒潮大蛇行などの自然的な要因が、水揚げに大きな影響を及ぼしたことから、目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・いとう漁業協同組合が実施する種苗放流（ヒラメ、アワビ）や魚礁設置（アオリイカ）事業及び伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗（マダイ）放流事業に対して支援を行い水産資源増大を図っていく。	

中間 評価	（達成状況）	C
	（実績評価）	・水揚げ数量の減少については、水産資源の減少及び天候不順による操業日数の減少、周辺海域の海況変化（黒潮大蛇行等）が主な要因と考えられ、目標値を達成することができなかった。
	（今後の対応）	・いとう漁業協同組合が実施する種苗放流（ヒラメ、アワビ）や魚礁設置（アオリイカ）事業及び伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗（マダイ）放流事業に対して、引き続き支援を行い水産資源増大を図っていく。

担当課		企画課		施策5－7の全指標達成率							
政策目標		5	活力にあふれ交流でにぎわうまち		年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野		7	移住定住の促進・関係人口の拡大		指標数	11	11	11	11	11	
目指す姿		移住（希望）者が安心して移住し、定住することができる		達成数	8	10	8	0	0		
				達成率	72.7%	90.9%	72.7%	0.0%	0.0%		
1 成果指標（KPI）					指標数	3	3	3	3	3	
					達成数	2	3	3	0	0	
					達成率	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
成果指標 1	移住者数（静岡県調査による。）		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
目標値の考え方			R1	目標値	100	100	100	100	100	人	企画課
			34人	実績値	96	113	127				
			評価	× 未達成	○ 達成	○ 達成					
			以上								
全国的に地方移住への関心が高まっている背景も踏まえ、本市としても移住促進に積極的に取り組み、毎年度100人を目標とした。											
成果指標 2	転入超過数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
目標値の考え方			R1	目標値	200	200	200	200	200	人	企画課
			94人	実績値	263	274	241				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
			以上								
伊東市総合戦略において令和42年度の本市の人口を36,600人程度確保することを目指しており、そのためには毎年度200人の転入超過を目指すことが必要と見込まれるため。											
成果指標 3	移住相談件数		基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
目標値の考え方			R1	目標値	160	180	200	470 (220)	500 (240)	件	企画課
			140件	実績値	210	400	444				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成					
			以上								
全国的に地方移住への関心が高まっている背景も踏まえ、本市としても移住促進に積極的に取り組み、各年度20件の増加を見込み、240件とした。											
R3年度	1（実績評価） ・目標値に届かなかったものの、移住相談件数や移住関連補助金申請件数は順調に推移しており、具体的に移住を検討している相談者の割合も多くなっていると感じている。 （次年度修正点） ・新たな移住支援制度を整備するとともに、民間の移住促進団体との連携を強化し、更なる移住定住促進を図る。										
	2（実績評価） ・テレワークの進展とともに地方移住の機運が高まる中で、本市が実施する移住・定住促進施策により、一定の効果があったものとする。また、令和3年の転出者数が前年度に比べて大幅に減少したことも目標達成の大きな要因となっている。 （次年度修正点） ・令和4年度から移住定住促進業務に従事する地域おこし協力隊を1名採用し、これまで開催することができなかった移住体験ツアーの開催や、移住セミナー・交流会等の企画、移住相談の対応及び情報発信業務を強化することで、移住者の増加を目指すしていく。										
	3（実績評価） ・地方移住の機運が高まる中で、移住定住サイトを中心とした情報発信や静岡県移住相談センター相談員や民間移住促進団体との連携を深めたことで、一定の効果があったものとする。 （次年度修正点） ・引き続き静岡県や民間団体との連携を深めるとともに、移住検討者が求める情報を確実に発信できるよう務める。										
R4年度	1（実績評価） ・移住相談件数はもとより、国の移住就業支援金が後押しとなり、支援金への問い合わせも増加傾向にある。令和4年度については、目標値を達成したため一定の成果があったものと評価できる。 （次年度修正点） ・移住相談にあたっては、これまで通り丁寧な説明を行うとともに、国や市独自の支援制度について、的確な情報提供を心掛ける。										
	2（実績評価） ・テレワークの進展とともに地方移住の機運が高まる中で、県及び本市が実施する移住・定住促進施策を利用して県外から本市に移住した人数も年々増加していることから、一定の効果があったものとする。 （次年度修正点） ・令和5年度から新たに移住者住宅資金貸付金利子補給事業を創設した。住宅取得に係る移住初期段階の経済的負担を軽減することで、移住者の増加及び定着を図り、目標値の達成を目指していく。										
	3（実績評価） ・首都圏で開催される移住相談会に参加するとともに、静岡県移住相談センターの相談員や民間の移住促進団体と連携を図ったことで、目標値を大きく上回る成果があったものとする。 （次年度修正点） ・令和5年度についても、首都圏で開催される移住相談会へ積極的に参加するとともに、市移住定住サイトによる情報発信等を細目に行っていく。										
R5年度	1（実績評価） ・テレワーク等の働き方が定着しつつある中、移住に伴う支援制度等の周知が浸透してきたことも相まって、目標値を達成できたものとする。 （次年度修正点） ・本市への移住者のうち、首都圏からの移住が大半を占めるため、東京有楽町にある静岡県移住相談センターと連携を図り、対面方式による出張相談会を積極的に開催していく。										
	2（実績評価） ・テレワークによる働き方が定着し、地方への移住を検討する人が多くなっている中、首都圏への交通アクセスの良さや自然豊かな環境に加え、各移住定住施策の積極的な展開を図った結果、目標値を達成できたものとする。 （次年度修正点） ・これまでとおり、移住相談会への参加や情報発信に努めるとともに、令和6年度から新たに創設した住宅改修支援事業補助金等の周知に努め、目標値の達成へ向け、移住定住施策に取り組んでいく。										
	3（実績評価） ・移住に伴う支援制度の拡充、首都圏で開催される移住相談会への参加、県移住相談センターや民間の移住促進団体と移住相談に関する連携を図ったことで、目標値を大きく上回ったと考える。なお、依然として地方移住への機運が高いと考えられるため、目標値を変更する。 （次年度修正点） ・相談の多くは、移住に伴う支援制度に関する内容であるため、様々な支援制度について正しく理解し、移住相談者に誤った情報を与えることがないように努めていく必要がある。										
中間評価	1（達成状況）	B+									
	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワーク等の普及による働き方の大きな変化によって、地方移住への機運が高まり、首都圏に近い本市への移住者が大幅に増加したのとする。									
	（今後の対応）	・現在の移住相談体制を確保しつつ、首都圏で開催される移住相談会へ参加するとともに、移住に伴う支援制度のほか、市移住定住サイトを通じた情報発信に努めていく。									
	2（達成状況）	A									
	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワーク等の普及による働き方の大きな変化によって、地方移住への機運が高まり、首都圏への交通アクセスの良さや豊かな自然環境を求める方の転入が増加したのとする。									
	（今後の対応）	・現在の移住相談体制を確保しつつ、首都圏で開催される移住相談会へ参加するとともに、移住に伴う支援制度のほか、市移住定住サイトを通じた情報発信に努めていく。									
評価	3（達成状況）	A									
	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワーク等の普及による働き方の大きな変化によって、地方移住への機運が高まり、首都圏に近い本市への移住相談件数が大幅に増加したのとする。									
	（今後の対応）	・現在の移住相談体制を確保しつつ、首都圏で開催される移住相談会へ参加するとともに、移住に伴う支援制度のほか、市移住定住サイトを通じた情報発信に努めていく。									

担当課		秘書広報課		施策5ー8の全指標達成率						
政策目標		5	活力にあふれ交流でにぎわうまち	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野		8	国際交流の推進・都市交流の促進	指標数	11	11	11	11	11	
目指す姿		市民が身近で国際交流が楽しめ、国際理解や都市間交流により相互の地域の理解が育まれている			達成数	2	2	5	0	0
					達成率	18.2%	18.2%	45.5%	0.0%	0.0%

1 成果指標（KPI）				指標数	3	3	3	3	3			
				達成数	0	0	1	0	0			
				達成率	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%			
成果指標 1	「国際交流機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
				R2	目標値	73.0	75.0	76.0	77.0	78.0	%	秘書広報課
				72.3%	実績値	70.4	65.4	59.5				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成			以上		
目標値の考え方「国際交流機会の充実」に満足している市民の割合は、令和元年度実績69.8%、令和2年度実績72.3%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で、78.0%以上とした。												
成果指標 2	日本語教室受講者数（延べ人数）			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
				R1	目標値	1,072	1,129	1,186	1,243	1,300	人	秘書広報課
				958人	実績値	799	988	1,126				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成			以上		
目標値の考え方外国人人口は、平成28年3月末460人、令和2年3月末658人で、約1.4倍増加していることから、日本語教室受講者数（延べ人数）は、令和元年度実績958人から、外国人人口と同程度の増加を見込む中で、1,300人とした。												
成果指標 3	国内姉妹（友好）都市交流事業の実施回数			基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
				R1	目標値	6	6	6	6	6	回	秘書広報課
				6回	実績値	2	5	7				
				評価	× 未達成	× 未達成	○ 達成			以上		
目標値の考え方国内姉妹（友好）都市交流事業の実施回数は、引き続き交流を深めていくことを目標とするため、基準値を維持することとした。												

R3年度	1（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、市民へ向けた交流事業が中止となったため、市民満足度の割合の目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・国際交流フェスタや異文化理解講座など例年行っている事業を開催し、国際交流に触れる場を作り、周知を図るとともに、国際交流に係る市民満足度を上げていく。											
	2（実績評価）・新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置実施区域となり8月～9月、1月～3月に休講の影響もあり受講者目標数を達成できなかった。 （次年度修正点）・コロナ禍においてもオンラインを利用するなどし、目標値に向け引き続き活動を行っていく。											
	3（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、都市交流事業が実施できず目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・例年行っている事業を開催し、交流を継続していく。											
R4年度	1（実績評価）・市民へ向けた交流事業は再開したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、従来の規模ではなく縮小開催となったため、市民満足度の割合の目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・国際交流フェスタや異文化理解講座など例年行っている事業を開催するとともに、従来の規模に戻していく中で国際交流に触れる場作りや周知を図るとともに、国際交流に係る市民満足度を上げていく。											
	2（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、8月～9月に休講した影響もあり受講者目標数を達成できなかった。 （次年度修正点）・コロナ禍の令和3年度から令和4年度にかけて189人増加したため、目標値に向け引き続き活動を行っていく。											
	3（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、都市交流事業を一部しか再開できず、目標値を達成できなかった。 （次年度修正点）・例年行っている事業を開催し、交流を継続していく。											
R5年度	1（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、令和2年度から中止や規模を縮小していたイベント等を再開することができたものの、この数年の間に認知度が低下してしまったために、満足度も低下してしまったと考えられる。 （次年度修正点）・多様な媒体でのイベント等の周知を検討・実施していく。											
	2（実績評価）・外国人従業員が多いホテルや旅館に募集チラシを配布するなどして周知を図った結果、受講者数が増加し、目標値に近づけることができた。 （次年度修正点）・引き続き、教室の周知を図っていく。											
	3（実績評価）・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、令和2年度から中止や規模を縮小していた交流を再開することができ、目標値を達成することができた。 （次年度修正点）・引き続き、交流を継続していく。											

中間評価	1（達成状況）		D											
	（実績評価）		・新型コロナウイルス感染症の影響により、数年間交流イベント等が思うように実施できなかったため、認知度及び満足度が低下してしまい、目標値を達成することができなかった。											
	（今後の対応）		・従来の交流イベント等を再開し、多様な媒体での周知を検討・実施していく。											
	2（達成状況）		D											
	（実績評価）		・新型コロナウイルス感染症の影響により、教室を休講にせざるを得ない時期もあったが、募集チラシの配布などにより、目標値は下回っているものの、受講者は年々確実に増加している。											
	（今後の対応）		・引き続き、教室の周知を図っていく。											
評価	3（達成状況）		B+											
	（実績評価）		・新型コロナウイルス感染症の影響により、思うような交流ができなかった時期があったものの、従来の交流を再開することができた。											
	（今後の対応）		・引き続き、従来の交流を継続するとともに、令和7年度には諏訪市との姉妹都市提携が60周年を迎えることから、記念事業を実施することで、自治体間交流を深めるとともに、民間交流も広がっていくよう努めていく。											

第十一次基本計画 実施計画（目的指向体系表）

構想の推進 総合計画を推進するための土台づくり

- 1 全員参加によるまちづくりの推進
- 2 市民の信頼に応える行政運営
- 3 健全かつ持続可能な財政運営

担当課	秘書広報課	構想の推進1の全指標達成率							
構想の推進	総合計画を推進するための土台づくり	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野	1 全員参加によるまちづくりの推進	指標数	15	15	15	15	15		
目指す姿	市民が積極的に様々な活動に参画することができる	達成数	8	7	9	0	0		
	市民が持てる力を最大限に発揮し、想いを形にできる	達成率	53.3%	46.7%	60.0%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）		指標数	2	2	2	2	2			
		達成数	0	0	0	0	0			
		達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
成果指標 1	「市民活動などの地域活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	67.0	68.0	69.0	70.0	71.0	%	秘書広報課
		実績値	59.2	57.9	59.8					
		65.9%	評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成			以上	
目標値の考え方	「市民活動などの地域活動の推進」に満足している市民の割合について、令和2年度実績65.9%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で71.0%とした。									

成果指標 2	「市民の声をうかがう機会の充実」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2	目標値	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0	%	秘書広報課
		実績値	43.0	46.0	46.0					
		50.7%	評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成			以上	
目標値の考え方	「市民の声をうかがう機会の充実」に満足している市民の割合は、令和2年度実績50.7%を参照し、各年度1%程度の上昇を見込む中で56.0%とした。									

R3年度	1（実績評価）	・魅力あるまちづくり事業補助金など市民が自主的に行う事業への支援を実施したが、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から事業控えとなったことなどにより、基準値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・引き続き魅力あるまちづくり事業補助金について手引きの送付やHPへの掲載などで周知し、地域活動の推進を図っていく。								
	2（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度からタウンミーティングの参加対象者を限定したことなどにより、基準値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・令和4年度についても、引き続き新型コロナウイルス感染症対策は不可欠であることから、市長への手紙や意見箱など、タウンミーティング以外の広聴手段について周知を図っていく。								
R4年度	1（実績評価）	・魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金など市民が自主的に行う事業への支援を実施し、魅力あるまちづくり事業補助金のイベント等の補助メニューについて補助率を2/3から3/4に引き上げたが、長期的な事業控えとなったために基準値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・引き続き、魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金について手引きの送付やHPへの掲載などで周知し、地域活動の推進を図っていく。								
	2（実績評価）	・令和4年度から新たな広聴制度として市政WEBアンケートを開始し、広く意見を伺う機会を創出したものの、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度からタウンミーティングの参加対象者を限定したことなどにより、基準値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・引き続き、市政WEBアンケートや市長への手紙、意見箱などの広聴制度について周知を図っていく。								
R5年度	1（実績評価）	・魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金など市民が自主的に行う事業への支援を実施したが、長期的な事業控えとなったために目標値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・引き続き、魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金について手引きの送付や市HPへの掲載などで周知し、地域活動の推進を図っていく。								
	2（実績評価）	・意見箱、市政WEBアンケート、市長への手紙、タウンミーティングを通じて広く意見を伺っているが、令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策のためにタウンミーティングの参加対象者を限定したことなどにより、目標値を下回ったと考えられる。 （次年度修正点）・令和6年度はタウンミーティングの参加対象者を限定せず、誰でも自由に参加できるようにするとともに、引き続き、市政WEBアンケートや市長への手紙、意見箱などの広聴制度について周知を図っていく。								
中間評価	1（達成状況）	D								
	（実績評価）	・魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金など市民が自主的に行う事業への支援を実施したが、コロナ禍が落ち着いた後も長期的な事業控えとなったために目標値を下回ったと考えられる。								
	（今後の対応）	・引き続き、魅力あるまちづくり事業補助金及び伊東市SDGs推進事業補助金について手引きの送付やHPへの掲載などで周知し、地域活動の推進を図っていく。								
	2（達成状況）	D								
評価	（実績評価）	・新型コロナウイルス感染症の影響により、タウンミーティングに参加対象者を限定せざるを得ない時期があったことにより、満足度が上昇しなかったと考えられる。								
	（今後の対応）	・タウンミーティングの参加対象者を限定せず、誰でも自由に参加できるようにするとともに、引き続き、意見箱、市政WEBアンケートや市長への手紙などの広聴制度について周知を図っていく。								

担当課		職員課		構想の推進2の全指標達成率							
構想の推進		総合計画を推進するための土台づくり		年度	R3	R4	R5	R6	R7		
施策分野		2	市民の信頼に応える行政運営	指標数	21	21	21	21	21		
目指す姿		市民に信頼される		達成数	13	12	13	0	0		
				達成率	61.9%	57.1%	61.9%	0.0%	0.0%		

1 成果指標（KPI）				指標数	1	1	1	1	1		
				達成数	0	0	0	0	0		
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
成果 指標 1	「市民に対する市職員の対応」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課	
		R2		目標値	69.0	70.0	71.0	72.0	73.0	%	職員課
		67.3%		実績値	62.3	64.2	67.6				
				評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	令和2年度実績67.3%を参照し、各年度1%程度の上昇を目指し、73.0%とした。										
R3年度	（実績評価）・目標未達成であるが中期的な実績としては、平成29年度の57.5%、平成30年度の58.0%、令和元年の56.0%と比較して向上している。 （次年度修正点）・職員研修を実施し、接遇技術の向上を図っていく。										
R4年度	（実績評価）・令和3年度を上回る実績値であるが目標値には達していない。 （次年度修正点）・目標と実績の差は縮まっていることから、引き続き職員によるおもてなしコンシェルジュを実施し、市職員の対応の満足度向上を図る。										
R5年度	（実績評価）・接遇に関する研修を実施しているが、目標値には達していない。 （次年度修正点）・目標と実績の差は縮まっていることから、引き続き職員によるおもてなしコンシェルジュ研修を実施し、市職員の対応の満足度向上を図る。										
中間評価	（達成状況）	B-									
	（実績評価）	・目標には至らないものの、実績は向上している。									
	（今後の対応）	・引き続き接遇研修等を実施し、市職員の対応の向上を目指す。									

担当課		財政課	構想の推進1の全指標達成率							
構想の推進			総合計画を推進するための土台づくり	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
施策分野			3	健全かつ持続可能な財政運営	指標数	13	13	13	13	13
目指す姿			健全かつ持続可能な財政運営ができています	達成数	11	9	9	0	0	
				達成率	84.6%	69.2%	69.2%	0.0%	0.0%	

1 成果指標（KPI）				指標数	2	2	2	2	2	
				達成数	1	1	1	0	0	
				達成率	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
成果指標1	全ての会計の地方債残高（臨時財政対策債を除く）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R1 324億円	目標値	320	315	310	305	300	億円	財政課
			実績値	310	298	285				
			評価	○ 達成	○ 達成	○ 達成				
目標値の考え方	R1の324億円を基準に、健全化判断比率の状況等を勘案して、現在は、適正な地方債残高だと判断し、今後、大幅な収増も見込めないことから、借入を抑制し、将来の負担を軽減するために300億円以下と目標値を設定した。									
成果指標2	「市の財政の健全な運営」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	基準値		R3	R4	R5	R6	R7	単位	担当課
		R2 52.1%	目標値	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	%	財政課
			実績値	45.3	49.4	47.6				
			評価	× 未達成	× 未達成	× 未達成				
目標値の考え方	R2の52.1%を基準値と考え、市民の過半数が本市の財政状況を憂うことなく、生活（市民サービスを享受）できている状態である現状を維持していくことを目標としたため。									

R3年度	1（実績評価）	・地方債残高については、目標を達成できた。 一般会計において、これまでの大規模事業の実施により地方債残高が増加しことに加え、新図書館建設事業が進捗しているの で、今後借入の抑制に努める必要がある。 （次年度修正点）・今後も借入の抑制に努めていく。									
	2（実績評価）	・令和2年度に比べ6.8ポイント悪化した。 （次年度修正点）・市民に分かりやすい財政状況の開示に努めていく。									
R4年度	1（実績評価）	・地方債残高については、目標を達成できた。 一般会計において、令和4年度の借入額が抑えられたことにより地方債残高が減少したものの、今後も大規模事業が見込まれるため、借入の抑制に努める必要がある。 （次年度修正点）・今後も借入の抑制に努めていく。									
	2（実績評価）	・令和3年度に比べ、4.1ポイント上昇したものの、目標値には届かなかった。 （次年度修正点）・市民に分かりやすい財政状況の開示に努めていく。									
R5年度	1（実績評価）	・地方債残高については、目標を達成できた。 一般会計において、令和5年度の借入額が抑えられたことにより地方債残高が減少したものの、今後も大規模事業が見込まれるため、借入の抑制に努める必要がある。 （次年度修正点）・今後も借入の抑制に努めていく。									
	2（実績評価）	・令和4年度に比べ1.8ポイント悪化した。 （次年度修正点）・財政健全化法に基づく健全化判断比率は、各指標において適正な水準を維持しており、財政の健全な運営自体はできているため、広報や周知に当たっては手法や回数を研究し、市民に分かりやすい財政状況の開示に努めていく。									

中間評価	1（達成状況）	A	
	（実績評価）	・地方債残高については、令和3年度から令和5年度までのすべての年度で目標を達成できた。 一般会計において、令和3年度以降の借入額が抑えられたことにより地方債残高が減少したものの、今後も大規模事業が見込まれるため、借入の抑制に努める必要がある。	
	（今後の対応）	・今後も借入の抑制に努めていく。	
評価	2（達成状況）	D	
	（実績評価）	・財政健全化法に基づく健全化判断比率は、各指標において適正な水準を維持しており、財政の健全な運営自体はできていたものの、ホームページや広報紙による広報において、市民に対して分かりやすく伝えることができなかった。	
	（今後の対応）	・引き続き、健全な財政運営に努めるとともに、広報周知に当たっては、先進的な自治体の広報手法も研究し、市民全員が本市の財政状況を憂うことなく、生活市民サービスを享受できるよう市民に分かりやすい財政状況の開示に努めていく。	